２０１９年度

九州大学大学院医学系学府
医療経営･管理学専攻専門職学位課程

授　業　計　画

Syllabus

九州大学大学院医学系学府

目　　次

1.　医療経営･管理学専攻専門職学位課程について

1.　教育内容・・・1

2.　教育課程編成・実施の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

3.　履修方法・・・2

4.　修了要件・・・3

5.　学位授与方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

6.　医療経営・管理学専攻専門職学位課程修了後に想定される進路・・・3

2.　授業科目および取得すべき単位数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

3.　授業科目の講義内容

（1）医療学基礎科目群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

（2）共通基礎科目群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

（3）必修専門科目群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

（4）選択専門科目群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

4.　履修モデル・・・67

5.　2019 年度授業時間割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68

6.　医療経営・管理学専攻最終成果物執筆要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

7.　医療経営・管理学専攻成績評価規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72

8.　医療経営・管理学専攻インターンシップ・実習研修に関する実施要項・・・73

9.　学生生活のしおり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74

10.　学年暦・・・79

1. 医療経営・管理学専攻専門職学位課程について

１．教育内容

本専攻は，専門分化した医療技術を，人々が「安心・納得・一体感」を持って生活し，人生を過ごせるよう統合・調整・組織化できる高度な専門職業人の育成を目的とする。

欧米の公衆衛生大学院は，疫学・生物統計学等の基礎系学科と医療管理・経営，医療経済等の中核的学科を中心に，それぞれの大学院が特色ある学科を設けている。本専攻は，疫学・生物統計学等を基盤に，医療政策・医療経営・医療管理・医療コミュニケーションの分野により構成し，医療・保健に関する幅広い問題について特色ある総合的な教育研究を行う。

専攻の学生は明確な目的意識をもって入学することを想定しており，教育は，医療経営・管理に必要な共通の基礎的な知識の習得に加えて，学生個々の目的・適性・能力等に応じ，さらなる専門的，実践的な知見を深めることを目指す。

２．教育課程編成・実施の方針

授業科目は医療学基礎科目群，共通基礎科目群，必修専門科目群，選択専門科目群で構成されている。医療学基礎科目群は，医学・医療に関する基礎知識を修得するものであり，非医系学生（医師，歯科医師，薬剤師，保健師，看護師などの国家資格のための教育を受けた学士以外）に対しては必修科目となっている。共通基礎科目群は公衆衛生学の共通の基盤となる「医療保障法」,「医療安全管理論」などが含まれている。必修専門科目群は「医療政策学」,「医療財政学」,「医療経営学」,「医療管理学」,「医療コミュニケーション学Ⅰ」,「疫学」,「医学統計学」,「環境保健学」,「演習Ⅰ」,「演習Ⅱ」からなり，公衆衛生および医療経営・管理の専門職を養成するために不可欠な科目である。選択科目群は，医療経営・管理に必要な幅広い領域をカバーするものになっている。

カリキュラムは以下の原則に従って編成されている。

(1) 専門職大学院の理念をふまえる。

(2) 医学・医療に関する基礎知識の上に立って専攻教育を行うため，非医系学生に医療学基礎科目群（医学概論，分子医学概論，内科学及び外科学）を履修させ，医学知識を修得させる。

(3) 四つの分野で教育を行うが，いずれの分野も，学術研究に基づく研究体系を基盤に，実践的な教育を必要とするものであり，大学教員と実務経験者の教員の授業科目を効果

的に組み合わせて教育を行う。

(4) 授業科目は，指導教員の履修指導により，本人の適性，能力，希望する進路に応じた柔軟な履修が可能なものとする。

(5) 指導教員は，医療経営・管理学講座の教員をもって充て，学習内容を深めることができるように編成する。必要がある場合は，他講座や他学府の教員に依頼し，特定分野について指導を依頼することもある。

(6) 授業は，講義形式のほか，ケース・スタディ，討議，現地調査なども取り入れた実践的内容で実施する。また，シラバスを明確にし，確実な予習を基にした授業科目の履修を中心に，プレゼンテーション，ミニテスト，レポートなどにより理解度を把握しながら自発的学習を促していく。

(7) カリキュラムの編成については，授業評価アンケートの結果や外部評価の指摘事項もふまえ，継続的に見直していく。

３．履修方法

(1) 授業科目を医療学基礎科目群，共通基礎科目群，必修専門科目群，選択専門科目群の４群で構成する。

(2) 医療学基礎科目群は，非医系学生が医学・医療に関する基礎知識を修得するもので，必修科目とし，４単位を取得しなければならない。医系学生は履修の必要はない。

(3) 共通基礎科目群は，各分野において履修する上での基礎的知識を修得するための共通科目とし，6 単位以上修得しなければならない。

(4) 必修専門科目群は，全学生とも 18 単位全て修得しなければならない。

(5) 演習の単位認定には，卒業成果物の完成が必須である。

(6) 医療学基礎科目群及び共通基礎科目群のうち，修了要件として必要な単位数以上に修得した科目の単位は，選択専門科目群の単位数として認めるものとする。

(7) 一学期に履修科目として登録することができる単位数は 25 単位を上限とする。

(8) 指導教員は，教育上必要があると認めるときは，専門科目群の履修に代わり，他の学部，学府の授業科目を指定して履修させることができる。

(9) 教育上有益と認めるときは，入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本専攻における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

４．修了要件

医系学生，非医系学生ともに，２年以上在学し，指定の授業科目から 30 単位以上を修得し，その他本専攻の定める教育課程を修了すること。修了要件を満たした者には医療経営・管理学修士（専門職）の学位（英名 Master of Health Administration：MHA）を授与する。

５．学位授与方針

医療政策（目的，仕組み，関連法規，現状の問題点），医療経営（目的，経営戦略，経営組織，事業計画，マーケティング），医療管理（目的，組織管理，安全管理，医療の質の管理，人事管理，財務管理），医療コミュニケーション（目的，技法，阻害要因，医療紛争の予防）について，専門的知識を習得しており，医療経営・管理の実践において中心的役割を担える。また，医療の問題意識を常に持ち，自ら進んでその問題を解決していこうという志向をもち，現場の問題点を分析・結果を把握し，具体的に対策を組み立て，採択された対策の再分析と結果を把握するなど，医療の質の改善のための不断のサイクルを回すことができる。さらに，コミュニケーションを通じ，根拠をもとに周囲のスタッフと現場の認識を共有し，改善に向けた共同作業を行いながら，自身も組織も成長していこうという志向性を持つ。そして，利害関係者の多様な利害を調整し，コンセンサスを得るプロセスを担うことができる。

６．医療経営・管理学専攻専門職学位課程修了後に想定される進路

医療経営・管理学専攻専門職学位課程修了後に想定される進路の分野としては，医療機関における実務はもとより，医療経営・管理に関連する研究，教育，行政に至るまで多岐に渡る。具体的には，医療機関，学術研究機関，医育機関・教育機関，保健・医療・福祉に関連する国・地方自治体の行政機関，医師会等の職能団体，医療関連の第三者機関，シンクタンク，コンサルタンティング会社，介護・福祉施設などが挙げられる。医療経営・管理に関する体系的教育体制が確立されていないなかで，修了者は，これらの分野におけるパイオニアかつ指導者として，国内のみならず，国際的にも活躍することが期待される。

2. 授業科目および取得すべき単位数

（1）医療学基礎科目群

非医系学生（医師，歯科医師，薬剤師，保健師，看護師などの国家資格のための教育を受けた学士以外）の必須科目

下記 4 科目（医学概論，分子医学概論，内科学，外科学）それぞれ 1 単位を履修すること

授業科目名	配当年次	単位数	1 年次		2 年次		世話人または担当教員
			前期	後期	前期	後期	
医学概論	1	1	○				鴨打教授
分子医学概論	1	1	○				住本教授
内科学(注)	1	1	○				赤司教授
	1	1	○				須藤教授
外科学	1	1	○				森教授

(注)

「内科学」は,「臨床医学 V①, ②」(赤司教授)または「臨床医学 V③」(須藤教授)のいずれかを受講することで 1 科目(1 単位)とする。両方を受講しても，医療学基礎科目としては，内科学1単位となる。

（2）共通基礎科目群

医系学生および非医系学生の選択必須科目 6 単位以上必要

授業科目名	配当年次	単位数	1 年次		2 年次		世話人または担当教員
			前 期	後 期	前期	後 期	
医療保障法	1･2	2		○		○	福田准教授
医療マーケティング論	2	2			○		馬場園教授
医療の質概論	1	2		○			鴨打教授
医療安全管理論	1	2		○			鮎澤准教授
病院管理論	1	2		○			鮎澤准教授
医療オーガナイズ論	2	2				○	馬場園教授
社会医学	1	1	○				池田教授

（３）必修専門科目群

医系学生および非医系学生の選択必須科目 18 単位すべて必要

授業科目名	配当年次	単位数	1 年次		2 年次		世話人または担当教員
			前期	後期	前期	後期	
医療政策学	1	2	○				馬場園教授
医療財政学	1	2	○				福田准教授
医療経営学	1	2		○			福田准教授
医療管理学	1	2	○				鮎澤准教授
医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学Ⅰ	1	2	○				鴨打教授
疫学	1	2		○			松尾助教
医学統計学	1	2	○				清原(千)講師
環境保健学	1	2		○			小野塚助教
演習Ⅰ	2	1			○		指導教員
演習Ⅱ	2	1				○	指導教員

（４）選択専門科目群

授業科目名	配当年次	単位数	1 年次		2 年次		世話人または担当教員
			前期	後期	前期	後期	
医療行政学	1･2	2	○		○		鴨打教授
医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学Ⅱ	1･2	2		○		○	鴨打教授
医療経済学	1･2	2	○		○		松尾助教
薬事情報学	1･2	1	○		○		家入教授
医療訴訟論	1･2	2		○		○	五十川教授
医療財務管理論	1･2	2		○		○	植田公認会計士
疾病管理学	1･2	2		○		○	鴨打教授
病院会計学	1･2	2		○		○	重見共同代表
社会保険労務論	1･2	2	○		○		鴨打教授
医療分析学	1･2	2	○		○		小野塚助教
衛生学	2	1				○	二宮教授

専門職大学院コンソーシアムの「相互履修対象科目」について

- 九州大学の専門職大学院コンソーシアムの制度により，他のビジネススクール（経済学府産業マネジメント専攻，人間環境学府実践臨床心理学専攻，法科大学院）の講義の一部を履修し，単位とすることができる。
- 2 年次以降の履修になる。
- 対象となる授業科目が年度で異なり，別途シラバスを参照とする。

3. 授業科目の内容

（1） 医療学基礎科目群　P.12～

授業科目	授業内容	掲載頁
医学概論	医学・医療をさまざまな視点から学び，自ら医学・医療を考えることできるようにする.	13
分子医学概論	ヒトを構成する最小単位である分子の構造と機能から人体の機能を考察する. 特に急速に進行するゲノム解析を含む遺伝学，免疫学，生理学等の最新の動向について，事例検討を中心に講義し，現代の医学の課題について討論する.	14
内科学	患者受診から診断・治療にいたるプロセスについて講義する. 内科診療にて頻度の高い症候を手がかりに，病歴聴取・身体所見・臨床検査を診療録に記載し問題点の抽出を行う過程を，事例検討を交えて行う.	16
外科学	外科学を中心とした治療学を，医師，医療技術者，患者・家族の関係を含めた医療プロセスについて，事例検討を中心に演習方式(実地見学を含む)により行う.	20

（２） 共通基礎科目群　P.21～

授　業　科　目	授業内容	掲載頁
医 療 保 障 法	法の概念整理を行った上で，実際の厚生行政における政策立案や実施における医療保障法の考え方を学ぶことを基本的姿勢とする．具体的には，医療提供体制に関する法，医療保障費に関する法，医療施設，医療関係者と患者に関する法などを，事例を通して講義する．	22
医療ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論	医療マーケティング論では，医療サービス提供者が，患者のニーズ（ある充足状況が奪われている状態）やウォンツ（ニーズを満たすために特定のものが欲しいという欲求）を満たす社会的・管理的プロセスを学ぶ．	24
医 療 の 質 概 論	医療の提供を最適化するために「医療の質」とは何かを考察する．医療を取り巻く環境の変化に対応し，ストラクチャー，プロセス，アウトカムの面から質を多角的に測定，評価し，質を改善する方策について学習する．	26
医療安全管理論	近年の医療の現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯ならびに動向を理解し，その具体的な取り組みに必要な知識と技術を修得するとともに，取り組みの問題点ならびに今後の課題について検討する．	27
病 院 管 理 論	特色ある取り組みを行っている現場や卓越した実績を上げている現場の実務者を迎えた講義ならびにディスカッションを通して，現場の職業人に必要な現実的な問題解決の知識と技術を修得する．	29
医療ｵｰｶﾞﾅｲｽﾞ論	医療を成立させることは簡単ではない．医療者と患者の利害は一致しないことが多いし，医療従事者同士の利害も一致しないことも少なくないからである．医療スタッフと患者との共同作業で成立する医療をオーガナイズするためには，根拠に基づいた測定，推計，設計に加えて，社会的な価値の共有とか合意といった哲学や倫理的な問題も考慮されなければならない．EBM，因果関係論，医療判断学，健康の概念，健康政策，患者の支援，生命倫理学などを取り上げる．	31
社　会　医　学	（概要）自然及び社会環境がヒト集団の健康に与える各種要因を分析，理解し，ヒトの健康増進．病気の予防に役立つ対策を立案する社会医学的研究方法を講義し，問題解決型グループ学習により社会医学の研究成果が直ちに社会の利益として反映されることを理解する． （オムニバス方式） ・自然及び社会的環境がヒトの集団の健康に与える健康障害の発生要因，影響評価を分析し理解する． ・社会医学の研究成果が犯罪学，法廷人類遺伝学（DNA 分析）等により社会利益として反映されていることを理解する．	33

（３） 必修専門科目群 P.34～

授業科目	授業内容	掲載頁
医療政策学	医療政策学では，資源に限りがあることを前提とし，公正に効率良く医療資源を分配するための制度と技術を学ぶ．医療制度としては，医療法，健康保険制度，診療報酬制度，介護保険制度，保健政策，医療制度の国際比較を，技術としては，医療政策を評価する技術，医療の経済学的分析方法を講義する．	35
医療財政学	国，地方自治体及び保険者の財政構造及び医療提供上の財政的諸問題について，財政学・経済学の視点を踏まえて講義する．また，資源配分効率性を検証するための費用対効果分析の手法を修得する．	37
医療経営学	経営学において発達してきた理論的，実証的な分析手法を医療機関経営に適用・応用した講義を行うとともに，わが国の現実の医療機関経営のケース・スタディを行うことにより，医療機関経営についての実践的な知見を深める．	39
医療管理学	「管理」に関する体系的な知識を修得するとともに，医療の現場の「管理」に関する知識と理解を深める．また特に「質の管理」と「安全管理」に関する知識と理解を深め，その具体的な実践の手法を修得する．	41
医療コミュニケーション学Ⅰ	医療の場におけるコミュニケーションの特徴・種類，関連要因，医療コミュニケーションと医療の質との関係，コミュニケーションの医療管理において果たす役割，より相手に的確に伝えるためのコミュニケーション技法について講義及び事例研究を行う．	43
疫学	疫学研究を介して，これまで多くの医療保健問題の解決が試みられている．疫学では統計学的な手法が用いられるが，医療の実践における疫学的思考を理解することを主として講義する．	44
医学統計学	公衆衛生学及び医療で用いられる基本的な統計処理に必要な適正な標本の収集とデータ解析，検定推定の基礎理論，人口統計学，保健統計学等について講義と演習を組み合わせて授業を行う．	45
環境保健学	時系列解析や空間時間解析といった研究手法を含め，環境保健学（環境疫学）分野における主なテーマについて，理解を促進することを目的とする．	47
演習Ⅰ・Ⅱ	医療経営・管理に関する卒業成果物を作成するために必要な講義及び研究指導を行う．	48

（４） 選択専門科目群　P.53～

授　業　科　目	授業内容	掲載頁
医　療　行　政　学	医療行政の施策は合理的かつ効率的であることが必要で，医療政策の策定や変更は合理的な根拠（evidence）に基づいて行われなければならない.	54
医療コミュニケーション学Ⅱ	医療の分野におけるマスコミの果たす役割は，他の分野に比べはるかに大きいものがある. 医療技術の導入・普及から医療事故，薬害，医療施策の衆知に至るまで，マスコミュニケーションの果たす役割について講義及び事例研究を行う.	56
医　療　経　済　学	保健医療における課題について経済的視点からアプローチをする. 経済的評価の本質，意義について理解し，解決のための思考を学ぶ.	57
薬　事　情　報　学	国際的なネットワークを通じ薬事情報を収集するとともに，医薬品情報や薬物体内動態解析に基づき薬物療法を最適化し，医療現場に適切な薬事情報のフィードバックを行うなど，講義及び演習を通じて医薬品の開発過程や臨床現場での使用により発生する薬事情報の収集・解析・提供を学ぶ.	58
医　療　訴　訟　論	医療過誤発生の構造，医療過誤判例の法理，訴訟法等医療過誤と法的責任を中心に，訴訟当事者間の関係，訴訟の要因となる医療現場の問題点等について事例を中心に講義及びグループ討議を行う.	60
医療財務管理論	様々な医療制度改革を背景に，経営状態を計数的に把握する重要性が増してきている. 財務諸表から得られる財務情報と医事統計データ等の非財務情報をもとに経営分析を行い，主として資金管理の観点から経営管理上の問題解決ができるよう知識と技術を修得する.	61
疾　病　管　理　学	患者，地域，社会における疾病管理の意義とその概要を学習する. 疾病発症の背景，機序を理解し，モニタリング，心理学的介入，行動変容等を通じて医学的管理を組織的に行う体系について考える.	62
病　院　会　計　学	「病医院に倒産はない」という神話は過去のものとなり，我が国の医療機関を取り巻く環境は診療報酬の改定や少子高齢化，医療費の増加抑制など目まぐるしく変化し，一般企業と同様の経営ポリシーを保持して行かなければならない状況となっている. 当講義は医療機関の経営的特質の部分と一般企業と同様の経営手法を取るべき部分を調和させながら，病医院が行うべき経営を会計学の視点から講義する.	63

社会保険労務論	医療機関も含め企業経営の現場における昨今の人事・労務に関する諸問題，経営ニーズ，対応策について，関係諸法令，行政動向，企業事例を通じて理解する.	64
医療分析学	医療分析学の概念，指標，分析方法等に関する基礎的な知識を提供するとともに，保健医療分野の具体例を用いて，研究計画の立案からデータの収集，管理，統計解析，解釈に至るまでの一連のプロセスについて理解を促進することを目的とする.	65
衛生学	人間の健康は環境によって影響を受ける. 衛生学では主に生物学的要因，化学的な要因，物理的な要因を取り扱うが，これらの要因の健康への影響と対策を学ぶ.	66

科目別授業内容

（１）医療学基礎科目群

授業科目群名	医療学基礎科目群		
授業科目名	**医学概論**		
開講学期	1年次･前期	単位数	1
担当教員	医療経営･管理学教員(鴨打 正浩，馬場園 明，鮎澤 純子，福田 治久)		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 医学・医療をさまざまな視点から学び，自ら医学・医療を考える. **Ⅱ. 個別行動目標** さまざまな視点から，医療について議論できるようになる. **授業内容** 1. 総論:馬場園 明 (4/11) 医療の使命について歴史的な視点から考える 2. 因果関係の視点から:馬場園 明 (4/18) 医療を倫理的な立場から考える 3. 法的な視点から:鮎澤 純子 (4/25) 医療を権利としての視点から考える 4. 患者の立場から:福田 治久 (5/9) 医療を患者の立場から考える 5. 医療管理の立場から:鮎澤 純子 (5/16) 医療の使命を医療管理に組み入れていく視点から考える 6. 医学研究の立場から:福田 治久 (5/23) 医療を学術的エビデンスの観点から考える 7. 医師の立場から:鴨打 正浩 (5/30) 医療を医師の立場から考える 8. 医療のあるべき姿:鴨打 正浩 (6/6) あるべき姿から医療を考える 9. 試験(6/13)		
授業のすすめ方	講義形式である.		
教科書及び参考書	授業時に渡すレジュメに記す.		
OFFICE HOUR	常時可		
試験・成績評価	出席：50% 試験：各担当が 1 問ずつ出題 50%		

授業科目群名	医療学基礎科目群		
授業科目名	**分子医学概論**		
開講学期	1年次・前期	単位数	1
担当教員	住本 英樹		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** ヒトの健康の仕組みと病気の成り立ちを分子のレベルで理解する. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 遺伝子病とタンパク質の構造(住本 英樹教授)(6/7) 1)DNA から RNA を経て蛋白合成に至る分子機構を理解し, 説明できる. 2)単一遺伝子病の原理を理解し, 説明できる. 3)タンパク質の構造と遺伝病の関連を理解し, 説明できる. 2. ミトコンドリア病(康 東天 教授)(6/14) 1)ミトコンドリアの機能を理解し, 説明できる. 2)ミトコンドリア病とミトコンドリア DNA の関係を理解し, 説明できる. 3)活性酸素とミトコンドリア病の関係について理解し, 説明できる. 3. 人体発生と発生原理(目野 主税 教授)(6/21) 1)初期発生の概要を説明できる. 2)器官形成について説明できる. 3)個体発生を可能にする発生原理について説明できる. 4. ウイルス感染症(栁 雄介 教授)(6/28) 1)微生物の種類と性質の違いを説明できる. 2)微生物の感染の機構を説明できる. 3)感染症の発症機構を説明できる. 5. 細菌のゲノム解析と病原性(林 哲也 教授)(7/5) 1)細菌の遺伝的特性を説明できる. 2)病原細菌の病原体としての特性を説明できる. 3)細菌のゲノム解析の基本的な方法やゲノム解析の目的などを説明できる. 6. 幹細胞と再生医療(中島 欽一 教授)(7/12) 1)幹細胞について理解し, 説明出来る. 2)遺伝子発現を制御するエピジェネティクスに関して理解し, 説明できる. 3)iPS 細胞および神経幹細胞を利用した再生医療について理解し, 説明できる. 7. 組織幹細胞の維持機構(新井 文用 教授)(7/19) 1)幹細胞のストレスからの保護について理解し, 説明できる. 2)幹細胞を維持する微小環境について理解し, 説明できる. 3)幹細胞の維持機構の破綻について理解し, 説明できる.		

授業のすすめ方	生化学，生理学，分子生物学，遺伝学，病理学など多面的分野から，最新医学の現状について代表的疾患を例に分子レベルで講義する.
教科書及び参考書	「感染症広がり方と防ぎ方」井上栄　中公新書 「医学は何ができるか」ルイス・トマス　晶文社 「ストライヤー生化学」入村達郎・他監訳　東京化学同人
OFFICE HOUR	特に設定しないが，随時質問・相談に応じる.
試験・成績評価	予習（授業内容の把握，問題意識のレベル）：20％ 授業参加（積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力）：50％ 学期末レポート：30％ 但し，担当教員が講義当日に明示する個別方針に従うこと.

授業科目群名	医療学基礎科目群		
授業科目名	**内科学　臨床医学Ｖ－①②　（アレルギー・膠原病・感染症概論）**		
開講学期	1年次・前期	単位数	1
担当教員	赤司 浩一（世話人）		

授業の概要

Ⅰ. 一般学習目標

1. 膠原病・アレルギーの臨床と病態を理解する.
2. 感染症・中毒について, その臨床と病態を理解する.

- 実施時間:月曜日1時限, 水曜日2時限, 木曜日1時限, 木曜日2時限または金曜日2時限
- 場所:臨床大講堂, 百年講堂中ホール, 基礎Ｂ棟講義室

回数	月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4/11	木	2	**中毒** 中毒物質を理解し, 中毒症の診断および治療を理解する 1. 中毒症の予防対策および診断・治療を理解する 2. 中毒症に対する特殊療法を理解する	中野 敏昭 包括的腎不全治療学 内線 5843 toshink@med.kyushu-u.ac.jp	臨床大講堂
2	5/9	木	2	**膠原病総論** 1. 自己免疫疾患の発症の機序を理解する 2. 膠原病の分類を説明できる 膠原病の検査について理解する	新納 宏昭 医学教育学 内線 6186 hniiro@cancer.med.kyushu-u.ac.jp	臨床大講堂
3	5.23	木	2	**細菌・真菌感染症** 細菌による感染症の発症機序, 疫学, 診断と治療, 予防等を学習する 1. 各種細菌感染症の診断および治療を理解する(大腸菌, 赤痢菌, 腸チフス菌, 緑膿菌また, クレブシラ菌, ブドウ球菌, 連鎖球菌, 肺炎球菌など) 2. 真菌, 原虫, 寄生虫による感染症の診断および予防を理解する	村田 昌之 総合診療科 内線 5909 mmurata@genmedpr.med.kyushu-u.ac.jp	臨床大講堂
4	5/27	月	1	**アレルギー総論** 1. アレルギー反応に関与する細胞について理解する 2. アレルギーの検査法について説明できる 3. アレルギーの治療法について説明できる	須藤 信行 心身医学 内線 5316 nobuyuki@med.kyushu-u.ac.jp	臨床大講堂
5	5/30	木	1	**アレルギー各論** 1. アレルギーの各疾患について病態を説明できる 2. 気管支喘息の型, 重症度について理解する 3. 気管支喘息の治療ガイドラインについて理解する	須藤 信行 心身医学 内線 5323 nobuyuki@med.kyushu-u.ac.jp	臨床大講堂

	6	6/12	水	2	**膠原病各論** 1. 関節リウマチの検査，診断について理解する 2. 関節リウマチの治療について説明できる 3. 全身性エリテマトーデスの検査，診断について理解する 4. 全身性エリテマトーデスの治療について説明できる	三苫弘喜 病態修復内科学 内線 5233 mitoma@intmed1.med.kyushu-u. ac.jp	基礎B棟講義室
	7	6/28	金	2	**ウイルス感染症** ウイルスによる感染症の発症機序，疫学，診断と治療，予防を学習する 1. 中枢神経ウイルス感染症，呼吸器ウイルス感染症，消化器系ウイルス感染症，発疹性ウイルス感染症の診断および治療を理解する 2. 肝炎ウイルス感染症の診断および治療を理解する 3. ヒト免疫性不全ウイルス感染症の診断および治療を理解する	村田 昌之 総合診療科 内線 5909 mmurata@genmedpr.med.kyushu-u.ac.jp	基礎B棟講義室
授業のすすめ方	講義形式である.						
教科書及び参考書							
OFFICE HOUR							
試験・成績評価	出席 20 点， レポート 80 点.						

授業科目群名	医療学基礎科目群		
授業科目名	**内科学　臨床医学Ｖ－③　（心身医学・精神医学概論）**		
開講学期	1年次･前期	単位数	1
担当教員	須藤 信行(世話人)		

授業の概要

Ⅰ. 一般学習目標

3. 心身医学・精神医学について，その臨床と病態を理解する.

- 実施時間:月曜日１時限，水曜日２時限，木曜日２時限，金曜日１時限または金曜日２時限
- 場所:基礎B棟講義室，臨床大講堂，百年講堂中ホール

回数	月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	5/29	水	2	**認知症の概念･分類･診断･治療** 1. 認知症の概念について理解する 2. 認知症の分類と診断について理解する 3. 認知症の治療について理解する	小原 知之 精神病態医学 内線 5627 ohara77@envmed.med.kyushu-u.ac.jp	基礎Ｂ棟講義室
2	5/30	木	2	**心身医学総論** 1. 心身医学の歴史，現状について理解する 2. 心身症の定義を説明できる 3. 心身両面からの診断について説明できる 4. 心身医学的治療について理解する	須藤 信行 心身医学 内線 5316 nobuyuki@med.kyushu-u.ac.jp	臨床大講堂
3	5/31	金	2	**精神医学総論** 1. 精神疾患の概念について理解する 2. 精神疾患の分類と診断について理解する 3. 精神疾患の治療について理解する	鬼塚 俊明 精神医学 内線 5625 toshiaki@npsych.med.kyushu-u.ac.jp	臨床大講堂
4	6/6	木	2	**精神疾患の薬物療法** 1. 向精神薬概論について理解する 2. 統合失調症とその治療について理解する 3. 気分障害とその治療について理解する 4. 不安障害とその治療について理解する 5. 睡眠障害とその治療について理解する	鬼塚 俊明 精神医学 内線 5625 toshiaki@npsych.med.kyushu-u.ac.jp	臨床大講堂

	5	6/7	金	1	**心身医学的治療** 1. 向精神薬について説明できる 2. 心理療法について理解する 3. 慢性疼痛の診断，治療法について理解する	細井 昌子 心身医学 内線 5320 hosoi@cephal.med.kyushu-u.ac.jp	臨床大講堂
	6	6/10	月	1	**心身相関の機序** 1. 学習理論，条件反射，オペラント条件づけについて説明できる 2. ストレスと神経・内分泌・免疫反応について説明できる 3. ストレスと各臓器の反応について理解する	吉原 一文 心身医学 内線 5323 kyoshiha@cephal.med.kyushu-u.ac.jp	百年講堂中ホール1・2
	7	6/28	金	1	**精神疾患の脳内病態機序** 1. 精神疾患の脳内病態機序概論について理解する 2. 統合失調症の脳内病態機序について理解する 3. 気分障害の脳内病態機序について理解する	加藤 隆弘 精神病態医学 内線 5627 takahiro@npsych.med.kyushu-u.ac.jp	基礎B棟講義室
授業のすすめ方	講義形式である.						
教科書及び参考書							
OFFICE HOUR							
試験・成績評価	出席 50 点， レポート 50 点.						

授業科目群名	医療学基礎科目群		
授業科目名	**外科学**		
開講学期	1年次・前期	単位数	1
担当教員	森　正樹		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 外科療学の概要を理解する. 2. 外科治療と医療従事者, 患者, 家族との関係を理解する. 3. 外科学治療と医療制度, 社会制度との関係を理解する. **Ⅱ. 個別行動目標** 1　外科学治療の概要 1.1　患者が入院して外科治療を受け, 退院するまでのプロセスを経時的に説明できる. 1.2　外科治療のプロセスに必要な種々のリソースを列記し説明できる. 1.3　外科学治療におけるトラブルについて列記し, 対策を述べることができる. 2　外科学治療と医療従事者, 患者, 家族との関係 2.1　外科学治療に関わる医療従事者, 患者, 家族関係を列記する. 2.2　外科学治療と医療従事者, 患者, 家族との間に発生するトラブルを列記し, 対策を述べることができる. 3　外科学治療と医療制度, 社会制度との関係 3.1　外科学治療に対して医療制度, 社会制度が提供するリソースを挙げる. 3.2　外科学治療において発生する医療制度, 社会制度上のトラブルを列記し, 対策を述べることができる. 3.3　外科学治療で, 今後新たに必要となる医療制度, 社会制度について列記し, 説明できる.		
授業のすすめ方	症例が病院を訪れて外科治療を受ける事例を中心に, 外科学治療と医療経営・管理の関与を学習する.		
教科書及び参考書	国民衛生の動向(財)厚生統計協会刊行		
OFFICE HOUR			
試験・成績評価	出席 50%, レポート 50%		

科目別授業内容

（２）共通基礎科目群

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	**医療保障法**		
開講学期	1・2 年次・後期	単位数	2
担当教員	福田 治久		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 法の体系や概念を説明できる. 2. 医療保障法の特性を説明できる. 3. 医療保障制度について, その概念と法令を説明できる. 4. 医療保障制度における具体的事例に対して, 考えをまとめることができる. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 医療者と司法者の考え方の相違点を理解する. 2. 我が国の法体系における医療保障法の位置付けを理解する. 3. 個別医療保障法について具体的な概念を含め, 基本的な知識を得る. 1) 医療提供体制に関する法 2) 医療保障費に関する法 3) 医療機関, 医療関係者, 患者に関する法 4. 医療保障に関する国際条約の規範的枠組みの中で, 医療保障法を理解し説明できる. 5. 医療サービスの提供, 医療保健制度を通じた医療費の公的保障, 医療における個人情報などをめぐる現代的な課題について, 法的観点から議論する力を身につける. **授業内容** 1. 医療保障法入門(1):刑事責任 2. 医療保障法入門(2):民事責任 3. 医師法, コメディカル法 4. 医療法 5. 健康保険法 6. 公衆衛生関連法規 7. 介護保険法 8. 医師賠償責任保険(1) 9. 医師賠償責任保険(2) 10. 法律と立法(1) 11. 法律と立法(2) 12. 医療保障法の枠組み・利用可能性 13. アクセス可能性(1):無差別・物理的アクセス可能性 14. アクセス可能性(2):経済的アクセス可能性・情報アクセス可能性 15. 受容可能性・質		

授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが，適宜出席学生の発表や相互討論等を求める.
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに，必要な講義資料を配布する.
OFFICE HOUR	質問・相談等の日時を事前にＥメール等で連絡すること.
試験・成績評価	積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力：50% 試験：50%

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	**医療マーケティング論**		
開講学期	2年次・前期	単位数	2
担当教員	馬場園 明		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 医療マーケティング論では，医療サービス提供者が，患者のニーズ（ある充足状況が奪われている状態）やウォンツ（ニーズを満たすために特定のものが欲しいという欲求）を満たす社会的・管理的プロセスを学ぶ． **Ⅱ. 個別行動目標**： 次の質問を説明できる． 1. 戦略的マーケティングを定義せよ． 2. 市場機会分析のプロセスを示せ． 3. マーケティングミックスとは何か． 4. ブルーオーシャン戦略を定義せよ． 5. 成長戦略の概要を述べよ． 6. バランスト・スコアカードが経営改善につながるための条件について記せ． 7. EMR の克服すべき問題について述べよ． 8. 患者満足度と従業員満足度との共通課題と相違点について述べよ． 9. ソーシャル・マーケティングを定義せよ． 10. 健診受診の動機づけを行うにはどうすればよいか疾病管理の目的について記せ． 11. 患者の心を理解するにはどのような仕組みが必要か． 12. 高齢者の栄養ケア・マネジメントについて記せ． 13. 嚥下・摂食支援のプロセスについて記せ． 14. CCRC を定義せよ． 15. 地域包括ケアを定義せよ． **授業内容** 1. イントロダクション，戦略的マーケティング （4/9） 2. 市場機会分析と市場の選択 （4/16） 3. マーケティングミックス （4/23） 4. 競争戦略とブルーオーシャン戦略 （5/7） 5. 成長戦略 （5/14） 6. バランスト・スコアカード （5/21） 7. マーケティング・リサーチ （5/28） 8. 医療サービスの特徴，患者満足度と従業員満足度 （6/4） 9. ソーシャル・マーケティング （6/11） 10. 患者さんの心を可視化するツールの開発 （6/18） 11. 高齢者の栄養ケア・マネジメント （6/25） 12. 高齢者の嚥下・摂食支援 （7/2） 13. CCRC（高齢者健康コミュニティ）の建設のためのマーケティング （7/9） 14. 地域包括ケアシステムの現状と課題 -ケース・スタディ- （7/16） 15. 呉市の「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」構想 （7/23） 16. 試験 （7/30）		

授業のすすめ方	講義はマーケティング論テキストに沿って行う. 学生はキーワードと課題を押さえておくこと.
教科書及び参考書	医療マーケティング論テキスト(最初の講義で配布する)
OFFICE HOUR	木曜日
試験・成績評価	最終試験は, キーワードから 20 題, 課題から 2 題出題する. 出席点 50 点, 試験 50 点で採点し, 60 点以上を合格とする.

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	**医療の質概論**		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩, 入江 芙美		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 医療の質を評価し, 改善する能力を身につける. 2. 医療現場における質について考察し, 次世代の医療を創造することができる. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 医療における質とは何かを説明する. 2. 医療の質に関する歴史的背景を述べる. 3. 国内外における医療の質改善に関する取り組みを説明する. 4. 臨床指標を列挙する. 5. 医療現場における医療の質を測定する. 6. 医療の質に関連する問題を考察する. 7. 医療の質改善のための方策を立案する. **授業内容** 1. 医療における質概論 I 2. 医療における質概論 II 3. 医療の標準化と PDCA サイクル 4. 品質管理 5. 医療の質の測定 6. クオリティインディケーター 7. 医療情報 8. クリティカルパス 9. 医療の質と ICT 利活用 10. 医療安全 11. 感染対策 12. 遠隔医療 13. 医療サービス 14. 医療システム 15. 総合討論		
授業のすすめ方	講義を中心として, 適宜ワークショップ, グループディスカッション, 総合討論などを行う.		
教科書及び参考書	David B. Nash, Neil I. Goldfarb: The Quality Solution. The stakeholder's guide to improving health care. Jones and Bartlett Publishers.		
OFFICE HOUR	他の用務がなければ常時質問, 相談に応じる.		
試験・成績評価	出席状況 40%, 受講態度 20%および試験 40%により採点を行う.		

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	**医療安全管理論** ― 医療の現場における安全管理		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	鮎澤 純子		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 近年の日本及び諸外国における安全管理をめぐる取り組みと研究の現状と動向を理解する. 2. 医療安全に関する基本的な事項を理解する. 3. 日本の医療の現場における具体的な取り組みについて理解し,現場の職業人に必要な知識と技術を修得する. 4. 日本の医療の現場における安全管理及びリスクマネジメントに関する問題点を整理し,今後の課題及びこれからの取り組みのありかたについて自らの意見を述べることができる. **Ⅱ. 個別行動目標** 以下の項目について理解し説明することができる(意見を述べることができる). ＊オリエンテーション (オリエンテーションを通して)本講義の内容と意図を理解し, 説明することができる. 1. 「安全管理」の基本的な考え方 医療の不確実性と医療システムの脆弱性 ・安全管理の必要性と基本的な考え方 2. 近年の医療安全に関する研究と取り組みの経緯と動向 近年の日本及び諸外国における医療安全に関する研究の経緯と動向 近年の日本及び諸外国における医療安全に関する取り組みの経緯と動向 3. 報告制度:エラーから学ぶ エラーから学ぶ意義 ・院外・院内の報告制度 4. エラーの構造(1) エラーの種類 ・エラーが起きる構造とエラーが事故に至る構造 「エラー防止」「事故防止」「拡大防止」の方法論 ・代表的なエラーの防止策 5. エラーの構造(2) ヒューマンエラーの特徴 ・ヒューマンエラーの防止策 6. 安全管理に関する基本的な事項:(1)基本的な事項 「fool proof」「fail safe」「5S」「スイスチーズモデル」「KYT」「ヒューマンエラー」「HRO」「レジリエンス」などの医療安全に関する基礎的な事項 7. 安全管理に関する基本的な事項:(2)分析手法 「RCA」「FMEA」などの基本的な分析モデルの考え方と方法 8. コミュニケーション 安全管理における医療従事者間のコミュニケーションの重要性 医療従事者間におけるコミュニケーションの手法 9. 安全管理の実務 医療安全に関連する法律とその内容 医療現場における医療安全管理体制 ・医療安全管理者の役割 10. 事故発生時の対応:(1)リスクコミュニケーションとクライシスコミュニケーション 事故発生時の対応のポイント ・近年の「共感の表明」と「謝罪」に対する考え方 「リスクコミュニケーション」と「クライシスコミュニケーション」 の概要		

	11. 事故発生時の対応:(2)事故調査 保全と記録の重要性 ・事故調査の目的 「事故調査」と「事故調査報告書」の考え方と実務及び今後の課題 12. 医療安全に関連する法的責任及び賠償責任の考え方 医療安全に関連する法的責任 ・賠償責任の考え方 13. 医療安全に関連する法的諸問題 14. 医療安全に関するトピックス 15. 事故に学ぶ:ケーススタディ **授業内容** 1. オリエンテーションと「安全管理」の基本的な考え方 2. 近年の医療安全に関する研究と取り組みの経緯と動向 3. 報告制度:エラーから学ぶ 4. エラーの構造(1) 5. エラーの構造(2) 6. 安全管理に関する基本的な事項:(1)基本的な事項 7. 安全管理に関する基本的な事項:(2)分析手法 8. コミュニケーション 9. 安全管理の実務 10. 事故発生時の対応:(1)リスクコミュニケーションとクライシスコミュニケーション 11. 事故発生時の対応:(2)事故調査 12. 医療安全に関連する法的責任及び賠償責任の考え方 13. 医療安全に関連する法的諸問題 14. 医療安全に関するトピックス 15. 事故に学ぶ:ケーススタディ
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが, 適宜出席者による発表, 相互討論等を求める. 講義スケジュールならびに内容は, 受講生の基礎知識のレベル及びばらつき, スケジュールや内容に対する要望, また講師のスケジュール調整等によって変更することがある.
教科書及び参考書	基本的に毎回配布資料を使用する. 教科書及び参考書については, 随時授業のなかで指定・紹介する.
OFFICE HOUR	特に設定しない. 原則として教員在室の際は随時質問・相談等に応じるが, 事前にアポを取ることが望ましい.
試験・成績評価	積極的な授業参加, ディスカッションポイントの把握と対応力:50% 期末試験とレポート:50% 上記を総合的に評価し, 60 点以上を合格とする.

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	**病院管理論**		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	鮎澤 純子		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 病院の経営・管理の実務に関する事項について,講義とディスカッションを通して,現場の職業人に必要な現実的な問題解決の知識と技術を修得する. 2. 特色ある取り組みを行っている現場や卓越した実績を上げている現場の実務者を迎えた特別講義とディスカッションを通して,現場の職業人に必要な現実的な問題解決の知識と技術を修得する. **Ⅱ. 個別行動目標** ＊オリエンテーション (オリエンテーションを通して)本講義の内容と意図を理解し, 説明することができる. 1. (1) 本講義の内容と意図 (2) 本講義に関連する現時点での基礎知識 (3) 終了時の学習到達目標に向けて必要な対策 2. (1) 病院管理論の対象 (2) 医療の現場における管理の対象 (3) 病院における収支の概要 (4) 病院の収支に関連する現状と課題 3-4.(特別講義とディスカッション) (1) 薬剤部における管理の実務 (2) 薬剤部における管理の現状と課題 5-6.(特別講義とディスカッション) (1) 看護部における管理の実務 (2) 看護部における管理の現状と課題 7-8.(特別講義とディスカッション) (1) 医療技術部における管理の実務 (2) 医療技術部における管理の現状と課題 9-10. (1) 病院の経営戦略 (2) 病院の財務構造 11-12.(1) 病院における各種委員会の役割 (2) 病院の経営・管理に関する今日的課題 13-14.(病院施設見学) 15. (SPDセンター見学) **授業内容** 1-2. オリエンテーションと病院管理論概論 3-4. (特別講義):病院管理の実務:薬剤部 5-6. (特別講義):病院管理の実務:看護部 7-8. (特別講義:病院管理の実務:医療技術部		

	9-10.　病院の経営・管理の実務(1) 11-12. 病院の経営・管理の実務(2) 13-14.（病院施設見学） 15.　　（SPDセンター見学）
授業のすすめ方	前期の「医療管理学」をふまえ，現場の実務者を外部講師として迎えての講義とディスカッションを中心とする. 特別講義は,原則2コマ続きとし,前半を講義,後半をディスカッションにあてる. 講義内容ならびに講義スケジュールは外部講師及び見学先のスケジュールによって変更することがある.
教科書及び参考書	必要に応じて資料を配布する. 教科書，参考書については，随時授業のなかで指定・紹介する.
OFFICE HOUR	特に設定しない. 原則として教員が在室の際は随時・相談等に応じるが，事前にアポを取ることが望ましい.
試験・成績評価	積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力:50% 期末試験とレポート:50% 上記を総合的に評価し，60 点以上を合格とする.

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	**医療オーガナイズ論**		
開講学期	2年次・後期	単位数	2
担当教員	馬場園 明		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 医療をオーガナイズするためには，広い知識と判断力が必要であり，科学性や合理性だけでは十分ではなく，社会的な価値の共有とか合意といった哲学や倫理的な問題も考慮されなければならない．因果関係論，EBM，医療財務，感染症対策，健康の支援，生命倫理学などを取り上げる． **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 因果関係を定義せよ. 2. 健康危機管理を組み立てられる. 3. オッズ比と罹患率比が同じになる条件について述べよ. 4. 交絡を定義せよ. 5. アウトブレイの際の原因究明の方法論について記せ. 6. 組織の変革のタイミングと実践のプロセスについて端的に記せ. 7. リーダーに求められる行動と変革型リーダーシップについて述べよ. 8. 損益計算書，貸借対照表，キャッシュ・フロー計算書の関係について記せ. 9. 業務活動によるキャッシュ・フロー，投資活動によるキャッシュ・フロー，財務活動によるキャッシュ・フローの組み合わせで財務をどう判断できるか. 10. 収益性分析，安定性分析，生産性分析を組み合わせて，医療経営の戦略にどのように用いることができるか. 11. 経済状態が変化すれば，なぜ健康の概念は変化するのか. 12. コヘレンス感は健康に良い影響を与えるのはなぜか. 13. 退行した高齢者への対応の原則について述べよ. 14. パターナリズムが人権を尊重していない根拠について説明せよ. 15. 臓器移植に関して残されている問題について論ぜよ. **授業内容** 1. イントロダクション，医学・医療における因果関係 (10/1) 2. 医学における因果関係の推論 −意思決定− (10/8) 3. 組織マネジメント論 (10/15) 4. リーダーシップ論 (10/29) 5. ドラッカーのマネジメント (11/5) 6. ドラッカーのマネジャー (11/12) 7. 財務管理概論 (11/19) 8. 財務諸表の読み方 (11/26) 9. 病院会計と経営 (12/3) 10. 健康の概念と健康政策 (12/10) 11. 健康支援学の理念と視座 (12/17) 12. 高齢者のこころの支援 (1/7) 13. インフォームド・コンセント (1/14) 14. 生きる権利と死ぬ権利 (1/21) 15. 最終試験 (1/28)		

授業のすすめ方	講義は医療オーガナイズ論テキストに沿って行う. 学生はキーワードの定義と課題を押さえておくこと.
教科書及び参考書	医療オーガナイズ論テキスト(最初の講義で配布する)
OFFICE HOUR	木曜日
試験・成績評価	最終試験は, キーワードから 20 題, 課題から2題出題する. 出席点 50 点, 試験 50 点で, 60 点以上を合格とする.

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	**社会医学**		
開講学期	1年次・前期	単位数	1
担当教員	池田 典昭		
授業の概要	● 医療の現場において死がどのように扱われているか学習するために，まず死とは何かをその現象から理解し，その判定が必ずしも容易でない場合もあることを理解する. ● 社会医学の研究成果が直ちに社会の利益として反映されていることを理解する. **Ⅰ. 一般学習目標** 医療の現場において死がどのように扱われているか学習するために講義終了時に以下の3項目を理解する. 1. 死とは何かをその現象から理解し，死の判定が必ずしも容易でない場合もあることを理解する. 2. 社会医学の研究成果が直ちに社会の利益として反映されていることを理解する. 3. 医療事故・医療過誤・医事訴訟には様々なとらえ方があることを理解する. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 社会医学における法医病理学 死とは何か，体死と細胞死について理解する. 突然死について理解する. 2. 社会医学における中毒学 医療の中での中毒学の特徴，殊性について理解する. 3. 社会医学における血清学 DNA 多型について理解し，その社会医学的応用について理解する. 4. 社会医学における病院の役割 乳幼児の虐待について社会医学の面から理解する. 救急現場で必要な社会医学的知識について理解する. 5. 社会医学における医療事故 医療事故に対して法律家，弁護士，医学者でとらえ方が違うことを理解する.		
授業のすすめ方	講義		
教科書及び参考書	その都度指示する.		
OFFICE HOUR			
試験・成績評価	出席 60 点，小テスト 40 点		

科目別授業内容

（３）必修専門科目群

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	**医療政策学**		
開講学期	1年次･前期	単位数	2
担当教員	馬場園 明		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 医療政策学では，資源に限りがあることを前提とし，公正に効率良く医療資源を分配するための制度と技術を学ぶ．医療制度としては，医療法，健康保険制度，診療報酬制度，介護保険制度，医療制度の国際比較を，技術としては，医療政策を評価する技術，医療の経済学的分析方法を理解することを目的とする． **Ⅱ. 個別行動目標**　次の質問に答えられる． 1. わが国の医療保障の枠組みについて述べよ． 2. わが国の健康保険制度の問題点とその解決策について述べよ． 3. 医療制度改革における医療法改正の役割について述べよ． 4. 政府は急性期病院の集約化を医療費の支払いによってどのように行おうとしているか． 5. 政府は医療の質の担保を診療報酬の仕組みでどのように行おうとしているか． 6. わが国の高齢者の医療制度の特徴について述べよ． 7. ナショナルデータベースを医療の評価にどのように応用できるか． 8. わが国の介護保険制度の特徴について述べよ． 9. 有病率が減少すれば費用効果が悪くなることを証明せよ． 10. 高齢者の社会的入院を解決するためにはどうしたら良いか． 11. 適切な自己負担とはどのような負担か． 12. 米国はなぜ国民皆保険制度を導入できないのか． 13. 英国の医療費適正化の方針について述べよ． 14. ドイツの医療費適正化の方針について述べよ． 15. フランスの医療費適正化の方針について述べよ． **授業内容** 1. 医療政策と医療制度 (4/9) 2. 健康保険制度と医療制度改革 (4/16) 3. 医療法 (4/23) 4. 医療費の支払い制度 (5/7) 5. 診療報酬の体系 (5/14) 6. 高齢者医療制度と医療制度改革 (5/21) 7. 介護保険 (5/28) 8. 中間試験 (6/4) 9. 医療政策と経済学的分析 (6/11) 10. 福岡県の高齢者の長期入院が医療費に与える影響 (6/18) 11. 医療サービスの受診保障と患者自己負担 (6/25)		

	12. 米国の医療改革 (7/2) 13. 英国の医療改革 (7/9) 14. ドイツの医療改革 (7/16) 15. フランスの医療改革 (7/23) 16. 最終試験 (7/30)
授業のすすめ方	講義は入門編と論文編がある. ガイダンスに従ってキーワードの定義と課題を自分でやっておくこと.
教科書及び参考書	医療政策学テキスト(最初の講義で配布する)
OFFICE HOUR	木曜日
試験・成績評価	中間試験・最終試験は, キーワードから 20 題, 課題から 2 題出題する. 出席点 50 点, 試験 50 点で採点し, 60 点以上を合格とする.

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	**医療財政学**		
開講学期	1年次・前期	単位数	2
担当教員	福田 治久		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 財政学の理論的・実証的な分析手法を学習し，医療財政に対する評価の手法や考え方を理解する. 2. 医療財政に係わる実証研究事例を学習し，エビデンスに基づいた財政戦略を理解する. 3. 医療イノベーションを促進しつつ医療費の適正化を図る分析手法である費用効果分析などの医療経済評価手法を習得する. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 財政の役割，財政制度について説明することができる. 2. 医療財政の財源調達システムや経済波及効果を理解し，説明することができる. 3. 不確実性の経済理論・医療保険制度について学習し，その概要を説明することができる. 4. 医療財政学からみた医療保険制度の現状と課題及び改革の動向を学習し，その概要を説明することができる. 5. 介護保険制度の制度的な概要について学習し，その概要を説明することができる. 6. 診療報酬の法制度的な仕組み・機能・影響について学習し，その概要を説明することができる. 7. 需要・供給理論および不確実性下における行動理論を学習し，医師誘発需要を定義することができる. 8. 疾病費用を分析・推計するための手法を習得することができる. 9. 医療費助成などの政策の必要性を経済学的に理解し，その影響について説明することができる. 10. OECD SHA 手法に基づいた医療費の国際比較を通じて，日本の財政方式の立ち位置の特徴を説明することができる. 11. 医療経済評価の必要性と先進諸国の導入状況について説明することができる. 12. 医療経済評価における費用の測定手法を習得する. 13. 医療経済評価における効果の測定手法を習得する. 14. 医療経済評価におけるモデリング手法を習得する. 15. 医療経済評価の報告事例を批判的に吟味し，研究成果を正しく解釈することができる. **授業内容** 1. 財政学概論 2. 医療財政学概論 3. 医療保険財政		

	4. 国民皆保険を巡る諸問題 5. 介護保険財政 6. 診療報酬制度概論 7. 医療需要と医療費 8. 疾病費用の分析手法 9. 自治体の政策評価 10. 医療財政の国際比較 11. 医療経済評価(1):概要・先進諸国の導入状況 12. 医療経済評価(2):費用の測定 13. 医療経済評価(3):効果の測定 14. 医療経済評価(4):モデリング 15. 医療経済評価(5):批判的吟味
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが, 適宜出席学生の発表や相互討論等を求める.
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに, 必要な講義資料を配布する.
OFFICE HOUR	質問・相談等の日時を事前にEメール等で連絡すること.
試験・成績評価	積極的な授業参加, ディスカッションポイントの把握と対応力(レポート等を含む):50% 試験:50%

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	**医療経営学**		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	福田 治久		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 経営学において発達してきた理論・手法を学習し，医療機関経営に適用・応用することができる. 2. 医療経営に係わる研究事例を学習し，科学的エビデンスに基づいた経営のあり方を理解する. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 医療経営学入門 ● 医療機関経営を経営学的にとらえることの意味を理解し，説明することができる. ● 医療機関経営の特徴について説明することができる. 2. 経営戦略 ● 全社戦略・事業戦略のそれぞれについて，戦略の計画・実行・評価の手法を理解し，説明することができる. 3. 医療マーケティング ● マーケティングの意義とプロセスを理解した上で，環境分析，セグメンテーション，ターゲティング，ポジショニング，コミュニケーション等の理論・手法を説明することができる. 4. オペレーション戦略 ● 組織全体としての最適化を図るための手法について理解することができる. ● 病院情報システムの概要および活用手法について説明することができる. 5. バランスト・スコアカード ● バランスト・スコアカードの基礎理論について学習し，医療機関経営における活用方法について説明できる. 6. 組織マネジメント ● 組織行動学に基づき，組織の存在理由について理解し，戦略との関係性について説明することができる. ● 代表的な組織構造のモデルについて学習し，メリット・デメリットを説明することができる. 7. 人材マネジメント ● 組織行動学に基づき，人材の評価システム，報酬システム，能力開発システムの基礎理論を理解し，人的資源の適切な管理手法を説明することができる. 8. アカウンティング・ファイナンス ● 財務管理・管理会計の基本的理解を得て，経営資源をコントロールする手法を説明することができる. ● 資金調達の形態について学習し，その特徴を理解することができる. 9. ケース・スタディ ● 実際の医療機関の経営戦略について学習し，その特徴を理解する.		

	授業内容 1. 医療経営学入門 2. 経営戦略(1) 3. 経営戦略(2) 4. 医療マーケティング(1) 5. 医療マーケティング(2) 6. オペレーション戦略(1) 7. オペレーション戦略(2) 8. バランスト・スコアカード(1) 9. バランスト・スコアカード(2) 10. 組織マネジメント 11. 人材マネジメント 12. アカウンティング・ファイナンス(1) 13. アカウンティング・ファイナンス(2) 14. ケース・スタディ(1) 15. ケース・スタディ(2)
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが，適宜出席学生の発表や相互討論等を求める.
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに，必要な講義資料を配布する.
OFFICE HOUR	質問・相談等の日時を事前にＥメール等で連絡すること.
試験・成績評価	積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力:50% 試験:50%

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	**医療管理学**　－医療における「質の管理」と「安全管理」		
開講学期	1年次・前期	単位数	2
担当教員	鮎澤 純子		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1.「管理」に関する体系的な知識を修得する. 2.医療の現場の「管理」に関する知識と理解を深める. 3.医療における「質の管理」「安全管理」に関する知識と理解を深め，その具体的な実践の手法を修得する. **Ⅱ. 個別行動目標** 以下の項目について理解し説明することができる(意見を述べることができる). ＊オリエンテーション (オリエンテーションを通して)本講義の内容と意図を理解し，説明することができる. 1.(1) 本講義の内容と意図 (2) 本講義に関連する現時点での基礎知識 (3) 終了時の学習到達目標に向けて必要な対策 2.(1)「経営」と「管理」の相違 (2) 組織における「経営」と「管理」の役割 (3) 経営資源 3.(1) 医療管理学の対象 (2) 医療の現場における管理の対象 4.(1) 組織のモデル (2) 産業界における組織管理 5.(1) 医療機関の組織構造とそれぞれの部門の役割 (2) 医療機関の組織構造の特性 (3) 医療界における組織管理 (4) 産業界における組織管理の手法の医療界への応用の可能性 6.(1) 産業界における「質」の考え方の変遷 (2) 産業界における「質の管理」の手法 7.(1) 医療界における「質」の考え方の変遷 (2) 医療界における「質の管理」の手法 8.(1) TQM の考え方 (2) 産業界における TQM の実務 (3) 医療界における TQM の実務 9.(1) 臨床指標の考え方　(2) 臨床指標を使った質の管理の実務 10.(1)「質の管理」と「機能評価」　(2) 日本医療機能評価機構の役割 (3) JCと JCI の役割 (4)「質の管理」と「ISO」 11.(1) 医療の現場における「情報の管理」の重要性 (2) 電子カルテの現状と課題 (3) 情報の電子化に関する現状と課題 12.(1) 医療の現場における「物の管理」の重要性 (2) SPDの現状と課題 13.(1) 日本と諸外国における安全管理の取り組みと研究の現状と動向 14.(1) リスクマネジメント　(2) ヘルスケアリスクマネジメント (3) クライシスマネジメント 15.(1) 質の管理と安全管理:ケーススタディ **授業内容** 1.　オリエンテーション，確認試験と医療管理概論 2.　医療管理学入門(1) 3.　医療管理学入門(2)		

	4. 組織管理(1) 5. 組織管理(2) 6. 質の管理(1):産業界における質の管理 7. 質の管理(2):医療界における質の管理 8. TQM の実務 9. 臨床指標を使った質の管理の実務 10. 「質の管理」と「機能評価」「ISO」 11. 医療の現場における「物の管理」 12. 医療の現場におおける「情報の管理」 13. 医療安全管理概論(1) 14. 医療安全管理概論(2) 15. 質の管理と安全管理:ケーススタディ
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが, 適宜出席者による発表, 相互討論等を求める. 講義スケジュールならびに内容は, 受講生の基礎知識のレベル及びばらつき, スケジュールや内容に対する要望, また外部講師のスケジュール調整等によって変更することがある.
教科書及び参考書	基本的に毎回配布資料を使用する. 教科書及び参考書については, 随時授業のなかで指定・紹介する.
OFFICE HOUR	特に設定しない. 原則として教官が在室の際は随時質問・相談等に応じるが, 事前にアポを取ることが望ましい.
試験・成績評価	積極的な授業参加, ディスカッションポイントの把握と対応力(レポート等を含む):50% 最終試験:50% 上記を総合的に評価し, 60 点以上を合格とする.

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	**医療コミュニケーション学Ⅰ**		
開講学期	1年次・前期	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 患者と良好なコミュニケーションをとる能力を修得する. 2. 医療におけるコミュニケーション問題を解決する能力を身につける. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 医療におけるコミュニケーション問題を理解する. 2. 患者状態が複雑多岐にわたることを説明する. 3. ケアを提供する医療者側と提供される患者側の心理状態とその相互作用を理解する. 4. 患者の心理状態を感じ, その背景を類推する. 5. 病気に対する患者の反応を予測する. 6. 医療現場における会話の役割を説明する. 7. コミュニケーション技術に習熟する. **授業内容** 1. 医療におけるコミュニケーション 2. 言語的／非言語的コミュニケーション 3. 医療者-患者関係の体系化 4. 病状説明 5. 医療における会話の役割 6. 患者の心理学的背景 7. コミュニケーションスキル 8. 医療者-患者間の会話 9. 行動変容のためのコミュニケーション 10. 医療者間のコミュニケーション 11. 医療者・患者コミュニケーションと医事紛争, 治療効果 12. 医師－患者コミュニケーションの定量的な評価方法 13. わが国の医療機関の標榜科に関する問題 14. 医療機関による広告の効果 15. ワークショップ		
授業のすすめ方	患者, 医療者におけるコミュニケーションについて討議する. 適宜講義を交え, ワークショップ, ロールプレイ, グループディスカッションを通して学習する.		
教科書及び参考書	「ヘルス・コミュニケーション改訂版」ノートハウス, ノートハウス著, 萩原明人訳, 九大出版会		
OFFICE HOUR	他の用務がなければ常時質問, 相談に応じる.		
試験・成績評価	出席状況 50%, 受講態度 20%, 試験 30%により評価する.		

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	**疫学**		
開講学期	1年次･後期	単位数	2
担当教員	松尾　龍		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 本専攻分野における疫学の役割を理解する. 2. 保健・医療科学分野で疫学の考え方を理解する. 3. 必要に応じて，疫学的手法を応用できる. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 疫学とは何か，その歴史や思考について説明できる. 2. 疫学研究の内容について理解し，説明できる. 3. 疫学研究の結果を正しく解釈できる. 4. 自らの課題に対して疫学的手法を用いて解決を諮ることができる. **授業内容** 1. 疫学的思考 2. 疫学の歴史 3. 因果関係 4. 疾病発生と因果的効果の測定１ 5. 疾病発生と因果的効果の測定２ 6. 疫学研究の種類１ 7. 疫学研究の種類２ 8. 感染症の疫学 9. バイアスへの対処法 10. 偶然誤差と統計の役割 11. 層化データによる交絡の制御 12. 交互作用の評価 13. 疫学分野における回帰モデルの利用 14. 臨床現場における疫学 15. 総括		
授業のすすめ方	講義を行いながら，質疑･討論を中心として理解を深める形態をとる.		
教科書及び参考書	基礎から学ぶ楽しい疫学　第３版，中村好一著，医学書院 ロスマンの疫学　第２版，Kenneth J Rothman 著，監訳　矢野栄二・橋本英樹・大脇和浩，篠原出版社		
OFFICE HOUR	常時．メール等による事前アポイントメントが望ましい.		
試験・成績評価	積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力:50% 試験:50%		

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	**医学統計学**		
開講学期	1年次・前期	単位数	2
担当教員	清原 千香子		

授業の概要

1) 講義:医学研究で汎用される統計解析の理論と手法を教授する.
2) 演習:論文を正しく評価できる能力と論文作成時に必要な統計学的能力を教授する.

回数	月日	時限		題目と学習目標
1	6/18	3	講義	**統計学の基本** ①定値の尺度と分布, ②代表値とバラツキ, ③推定値と誤差, ④母集団と標本について関連用語の意味と意義を説明できる.
2	6/18	4	演習	**統計学の基本(演習)** 基本的な統計量の計算を適切に行うことができる.
3	6/25	3	講義	**2 群の平均値と割合の比較:t−検定とχ^2−検定** ①統計学的検定と推定の概念を説明できる. ②unpaired t-test と paired t-test の違いと方法を説明できる.
4	6/25	4	演習	**2 群の平均値と割合の比較:t−検定とχ^2−検定(演習)** 基本特性の比較を適切に行うことができる.
5	7/2	3	講義	**分散分析** ①3 群以上の平均値の比較(一元配置分散分析), ②同一人に 3 種類以上の測定値がある場合(二元配置分散分析)の統計解析の方法を説明でき, ③分散分析の前提条件を説明できる.
6	7/2	4	演習	**分散分析(演習)** 分散分析を適切に行うことができる.
7	7/9	3	講義	**正規分布しない測定値の統計解析** ①対数変換の有用性を説明できる. ②測定値の性質に対応したノン・パラメトリック手法を説明できる.
8	7/9	4	演習	**正規分布しない測定値の統計解析(演習)** ノン・パラメトリック検定を適切に行うことができる.

	9	7/30	3	講義	**回帰分析** ①単相関分析と直線回帰分析の関連用語を説明できる. ②多重線形回帰分析の方法を説明できる.
	10	7/30	4	演習	**回帰分析（演習）** 回帰分析を適切に行うことができる.
	11	8/6	3	講義	**ロジスティック回帰モデルとコックス比例ハザードモデル** ①上記モデルからオッズ比と相対危険を推定できる. ②人年の概念を説明できる.
	12	8/6	4	演習	**ロジスティック回帰モデルとコックス比例ハザードモデル（演習）** オッズ比の計算を適切に行うことができる.
	13	8/6	5	講義	**離散データと分割表** ①2×2 分割表の解析方法を説明できる. ②$I \times m$ 分割表の解析方法を説明できる.
	14	8/20	3	講義	**測定値の一致度とサンプルサイズ** ①再現性と妥当性について説明できる. ②一致度の評価ができる. ③サンプルサイズの計算方法を説明できる. ④一致度とサンプルサイズの計算ができる.
	15	8/20	4	演習	**離散データと分割表（演習）** 2×2 分割表や $I \times m$ 分割表の解析を適切に行うことができる.
	16	8/20	5		試験
授業のすすめ方	講義と疫学論文における統計の解釈の仕方についての演習				
教科書及び参考書	バイオサイエンスの統計学（南江堂, 市原清志　著） ハーバード大学講義テキスト　生物統計学入門（丸善株式会社, Marcello Pagano/Kimberlee Gauvreau 著, 竹内正弘　監訳）				
OFFICE HOUR	12:00～18:00				
試験・成績評価	最終試験　100%				

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	**環境保健学**		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	小野塚 大介		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 本講義では，時系列解析や空間時間解析といった研究手法を含め，環境保健学（環境疫学）分野における主なテーマについて，理解を促進することを目的とする. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 環境保健学分野における重要な概念について説明できる. 2. 環境保健学分野におけるエビデンスの概要について説明できる. 3. 暴露評価や疾病クラスターに関する研究を行うための方法論について説明できる. 4. 空間時間研究や時系列研究の原理について説明できる. 5. 環境要因による健康リスクに関する科学的データについて評価及び批判的吟味ができる. 6. 行政機関における公衆衛生上の課題やその解決策について，環境疫学的手法を用いてアプローチできる. **授業内容** 1. 環境保健学概論(1) 2. 環境保健学概論(2) 3. 暴露評価のアプローチ(1) 4. 暴露評価のアプローチ(2) 5. 気候変動と健康(1) 6. 気候変動と健康(2) 7. 大気汚染と健康(1) 8. 大気汚染と健康(2) 9. 化学物質と健康(1) 10. 化学物質と健康(2) 11. 水質汚染と健康 12. 電離放射線と健康 13. ナノ粒子と健康 14. 職業環境と健康 15. 子どもの環境と健康		
授業のすすめ方	講義及び演習形式とする.		
教科書及び参考書	講義の際に，資料を適宜配布する.		
OFFICE HOUR	事前にアポイントメントをとること.		
試験・成績評価	出席状況:15 点 最終試験:85 点		

授業科目群名	必須専門科目群		
授業科目名	**演習Ⅰ・Ⅱ　医療経営管理・研究演習**		
開講学期	2年次・前期・後期	単位数	2
担当教員	馬場園 明		
授業の概要	【ビジョン】 良い医療を届けるための仕組みの構築から実行まで遂行することのできる人材を体系的教育内容およびグループダイナミクスで輩出する. 【ミッション】 医療制度や診療報酬・介護報酬の基礎知識を習得した上で, 医療を改善するにあたり求められる社会からのコンセンサスを得る手段としてエビデンスの提示力を高める. 【戦略】 統計学・診療報酬・介護報酬の体系的な教育と研究発表を繰り返す. これにより医療経営・管理を改善するために, 目標を明確にして, 改善策を検討し, 適切な指標を用いて, 測定, 推計, 設計する能力を涵養する. また, インターネットを使って, 医療政策の動向を更新していく技術を学ぶ. ＜キーワード＞日本型 CCRC, ホームベース型健康支援, 医療政策, 公衆衛生政策, 医療経営, 介護経営, 医療経済, 医療マーケテイング 【授業内容】 1. 確率分布 2. 推定・検定 3. 回帰分析 4. 分散分析, クロス表 5. 診療報酬 療養担当規則・初診料 6. 診療報酬 再診料・入院基本料 7. 診療報酬 DPC・特定入院料・短期入院料 8. 診療報酬 医学管理等・在宅医療・訪問看護 9. 診療報酬 検査・画像診断・投薬・注射 10. 診療報酬 リハビリ・精神科専門療法・処置料 11. 診療報酬 手術・麻酔・放射線 12. 診療報酬 病理・調剤薬局 13. 介護報酬 I 14. 介護報酬 II 15. 介護報酬 III		
授業のすすめ方	講義, ゼミ形式		
教科書及び参考書	Excel で学ぶ統計解析:涌井 良幸, 涌井 貞美 (著) ナツメ社 基礎医学統計学:神納克己, 高橋秀人, 南江堂		
OFFICE HOUR	木曜日		
試験・成績評価	講義への積極的参加(出席, 発言)50%, 成果物 50%とする.		

授業科目群名	必須専門科目群		
授業科目名	**演習Ⅰ・Ⅱ　医療経営管理・研究演習**		
開講学期	2年次・前期・後期	単位数	2
担当教員	鴨打　正浩		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 医療を改善するために, 医療に関する諸問題を同定し, 測定・定量化する. 2. 問題点を疫学・統計学的手法を用いて科学的に解析する. 3. それぞれの課題の解決策を見出し, 標準化することで医療の改善に寄与する. 4. これらの学習を通じて, 医療経営・管理に関する諸問題を解決する能力を身につける. 5. 得られた結果を学術研究として成果物にまとめる. **Ⅱ. 個別行動目標** 本演習では医療管理を共通テーマとするが, 研究分野は問わない. ・ 研究の仮説を設定する. ・ 研究の目的を説明する. ・ 文献の検索を行い, 研究における歴史的な背景を調べる. ・ 研究計画書を作成する. ・ 臨床指標を標準化する. ・ 臨床指標を測定し, 定量化する. ・ データを収集する. ・ データベースを作成する. ・ 統計学的解析方法を知る. ・ データベースを用いて解析を行う. ・ 解析結果を解釈し, 考察する. ・ 図表を作成し, 呈示する. ・ 論文を作成する. ・ マニュアルを作成する.		
授業のすすめ方	定期的に研究ゼミを開催する. 研究仮説の設定, 文献の検索, データの収集, 分析, 論文の書き方を指導する. 学生自身が研究内容を発表するとともに, 他の学生や共同研究者の発表を聞いて討論する.		
教科書及び参考書	テーマに沿って適宜指示する.		
OFFICE HOUR	個別に相談に応じる.		
試験・成績評価	演習への積極的参加(出席, 発言)50%, 成果物 50%とする.		

授業科目群名	必須専門科目群		
授業科目名	**演習Ⅰ・Ⅱ　医療経営管理・研究演習**		
開講学期	2年次・前期・後期	単位数	2
担当教員	鮎澤　純子		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 医療管理に関する学生自身の研究テーマを見出し,その研究過程ならびに結果に関して,後期において成果物を作成する. 2. 事故防止・安全管理・リスクマネジメントをはじめ医療管理に関する実務を通して現場における問題解決の実践を重ね,その実務過程ならびに結果に関して,後期において成果物を作成する. 3. 事故防止・安全管理・リスクマネジメントをはじめ医療管理に関して優れた実績を挙げている組織や取り組みのケースを研究し,後期においてケーススタディとして成果物を作成する. 4. 作成過程の段階から演習において順次発表し,教官ならびに他の学生とのディスカッションを重ね,研究テーマならびに実務上の問題解決の視点を掘り下げると同時に,プレゼンテーション能力の涵養を図る. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 研究を通した成果物 ● 医療管理に関する具体的な研究テーマを見出し,その研究テーマについて成果物を作成し,演習で発表する. ● 研究テーマについては,すでに教員が取り組んでいる研究に加わるかたちで進めていくこともできる. 2. 実務演習を通した成果物 ● 事故防止・安全管理・リスクマネジメントをはじめ医療管理に関する具体的な実務演習の場を選択し,その実務課程ならびに結果について事例報告として成果物を作成し,演習で発表する. 3. ケースの研究を通した成果物 ● 事故防止・安全管理・リスクマネジメントをはじめ医療管理に関して優れた実績を挙げている組織や取り組みのケースを研究し,後期においてケーススタディとして成果物を作成する. ・ 「研究」「事例報告」「ケーススタディ」のいずれにおいても,成果物の作成を通して,先行する研究,事例報告,もしくはケーススタディに関する調査・分析を行うことができるようにする. ・ 「研究」「事例報告」「ケーススタディ」のいずれにおいても,成果物の作成の目的,方法,予想される結果,結果,作成の意義などを明確にすることができるようにする. ・ いずれも,「医療経営・管理学講座成果物中間発表会」を経て,「医療経営・管理学講座成果物発表会」において,最終報告書に基づく発表を行う. また,特に優れていると認められる成果物については,その後,学術誌,一般誌等への投稿を指導する.		

	授業内容 (1)演習ゼミ開催予定 ・ 前期:4月3回,5月4回,6月4回,7月4回 計15回 ・ 後期:9月1回,10月4回,11月4回,12月3回,1月3回 計15回 合計30回 ・ 成果物の進捗状況に応じて個別演習を行う. (2)前期 ・ 成果物テーマ案を作成する. テーマ案を演習で発表し,教員及び他の学生からのコメントをふまえ,テーマを決定する. ・ 成果物作成計画案を作成する. ・ 決定したテーマについて成果物の骨格案を作成する. ・ 骨格案に基づき内容の検討・充実を図り,「医療経営・管理学講座成果物中間発表会」に向けた準備を進める. ・ 中間発表会でのコメントをふまえ,テーマ及び骨格に関する改善・充実を図る. (3)後期 ・ 成果物草稿(第一次)作成(9月) ・ 成果物草稿(第二次)作成(10月) ・ 成果物草稿(第三次)作成(11月) ・ 成果物最終稿作成(12月)
授業のすすめ方	基本的に演習(ゼミ)形式とするが, 各学生の成果物のテーマに応じて検討する. オリエンテーションを経て, できるだけ早く成果物作成に着手することを目指す.
教科書及び参考書	各学生のテーマに応じて必要なものを適宜紹介する.
OFFICE HOUR	特に設定しない. 教員が他の業務で抜けられない時以外は原則として随時・相談等に応じるが, 事前にアポを取ることが望ましい.
試験・成績評価	積極的な演習参加, ディスカッションポイントの把握と対応力:50% 成果物ならびに成果物による発表内容:50% 上記を総合的に評価し,60 点以上を合格とする.

授業科目群名	必須専門科目群		
授業科目名	**演習Ⅰ・Ⅱ　医療経営管理・研究演習**		
開講学期	2年次・前期・後期	単位数	2
担当教員	福田　治久		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 医療経営学・医療管理学・医療政策学に関して，学生自身が研究テーマを設定し，研究の成果物を論文にまとめる. 2. 既存の医療システムを改善するために，評価指標を設定し，実際に測定し，科学的に検証する手法を学習する. 3. 学術論文を理解し，科学的な意思決定を下すための統計解析手法を習得する. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 前期(4 月～7 月):合計 15 回 文献検索，データ収集，データ解析について指導した上で，下記の課題についてプレゼンテーション・ディスカッションを重ね，研究計画書を完成させる. (1) 学生自身が関心を持つテーマに関する文献レビューを行い，研究の「必要性」，「価値」，「実施可能性」を整理し，研究テーマを決定する. (2) 研究の倫理的諸側面について学び，研究計画書を作成する. 必要に応じて倫理審査を受審する. 2. 後期(8 月～12 月):合計 15 回 多変量解析手法，統計ソフトウェアの扱い方などを指導した上で，下記の課題についてプレゼンテーション・ディスカッションを重ね，研究成果物を完成させる. (1) 研究仮説を検証するためのデータを作成する. (2) 解析に適した手法を選択し，データを解析する. (3) 得られた結果を先行研究と比較し，適切に解釈する. 3. 重視している研究スタンス 実務経験において疑問を感じてきた事象をテーマに選び，それを定量化するための変数を設定し，データを実際に測定し，適切な方法で検証すること.		
授業のすすめ方	ゼミ形式・個別指導		
教科書及び参考書	個々の研究テーマに沿って，必要に応じて指示する.		
OFFICE HOUR	質問・相談等の日時を事前にＥメール等で連絡すること.		
試験・成績評価	評価は，演習への参加状況(50%)，提出物(50%)とする.		

科目別授業内容

（４）選択専門科目群

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**医療行政学**		
開講学期	1･2 年次・前期	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 日本の医療行政の基本的な仕組みと特徴を理解する. 2. 国家の行財政システムにおける医療行財政の位置付けを理解する. 3. 近年の重要な医療政策の展開について, 医療行政的な視点から説明できる. **Ⅱ. 個別学習目標** 1. 日本の統治構造の特色, 国及び地方行財政の基本構造, 並びに医療をめぐるステークホルダーの構造を説明できる. 2. 日本の法制度の基本構造及び医療行政組織の構造を説明できるとともに, 医療関係法令及び予算の決定プロセスを説明できる. 3. 社会保障の範囲及びその中での医療の位置付けを(国際比較も含め)説明できる. 4. 日本の医療保険行政の仕組み及びいわゆる保険者機能論について説明できる. 5. 日本の医療提供行政の仕組み及び医療提供体制改革の方向について説明できる. 6. 高齢者医療制度の設計及び高齢者ケア施設をめぐる政治･政策過程について説明できるとともに, これらについて自分の意見を述べることができる. 7. 地域医療構想及び妊婦加算をめぐる政治･政策過程について説明できるとともに, これらについて自分の意見を述べることができる. **授業内容** 【我が国の医療行政】 (1)日本の統治構造と行財政の仕組み (2)法制度の構造と医療行政 (3)社会保障制度と医療 (4)医療保険制度と医療行政 (5)医療提供体制と医療行政 (6)事例研究 • 高齢者医療制度の設計をめぐる議論:老人保健制度から独立方式の採用まで • 高齢者ケア施設をめぐる議論:老人病院から療養病床を経て介護医療院へ (7)事例研究 • 地域医療構想をめぐる議論:病床機能報告と必要病床数への収斂 • 「妊婦加算」をめぐる議論:診療報酬改定プロセス論等 【医療行政の個別課題の検討(諸外国との比較)】 (8)公衆衛生政策 (9)事例研究: • たばこ対策をめぐる議論		

	(10)医師不足対策 (11)事例研究 • 医師不足解消のための具体的方策 (12)感染症対策 (13)事例研究 • 新型インフルエンザ対策 (14)高齢社会への対応 (15)事例研究 • 終末期医療に関する指針
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが，適宜出席学生の発表や相互討論等を求める.
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに，必要な講義資料を配布する.
OFFICE HOUR	講義期間中は随時質問等に応じる.
試験・成績評価	出席状況 50%およびレポート 50%により評価を行う.

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**医療コミュニケーション学Ⅱ**		
開講学期	1･2 年次・後期	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 患者やチーム医療の担い手である医療従事者を多面的に理解するために必要な知識を習得する. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 臨床コミュニケーションの重要性を理解する. 2. 患者の状態は複雑多岐にわたるが，ケアを提供するスタッフは患者を多面的に理解し，病気に対する患者の反応とそれに対するスタッフの望ましい対応を習得する. 3. 患者心理の理解に必要な心理療法の理論やライフサイクルについての知識を得る. **授業内容** 1. 医療分野におけるコミュニケーションの重要性 2. 医療現場における患者心理の理解の重要性 3. 事例を通して患者心理や患者の理解について学ぶ 4. コミュニケーションの持つ力　言語的・非言語的コミュニケーション 5. 傾聴技法　効果的な聞き方　ききみみ 6-7. 医療現場でのコミュニケーションのずれや不満に対する対応 8-9. チーム医療と医療従事者のストレスマネジメント 10-15. ライフサイクルと発達課題 （乳児期・幼児期・児童期前期・児童期後期・青年期・成人期・中年期・老年期）		
授業のすすめ方	講義および実習形式で行う.		
教科書及び参考書	必要時に関連資料を配布する.		
OFFICE HOUR	講義期間中は随時質問等に応じる.		
試験・成績評価	平素の参加態度 50%, 及びレポート 50%により評価する.		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**医療経済学**		
開講学期	1･2 年次・前期	単位数	2
担当教員	松尾 龍		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 保健医療分野における課題を経済的視点から評価することの意義と役割，考え方について理解する. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 保健医療における課題について経済学的視点から議論できる. 2. 保健医療分野の課題を経済学的視点から評価し，解決のためにアプローチできる. **授業内容** （日程により順序が入れ替わることがある） 1. 医療経済学総論 2. 経済学からみた保健医療サービス～保健医療制度 3. 経済学からみた保健医療サービス～需要と供給 4. 経済学からみた保健医療サービス～医療提供体制 5. 経済学からみた保健医療サービス～消費者行動 6. 保健医療分野における経済的評価の意義と役割（費用対効果）Ⅰ 7. 保健医療分野における経済的評価の意義と役割（費用対効果）Ⅱ 8. （特別講義）医療崩壊～夕張市の財政破綻と医療Ⅰ 9. （特別講義）医療崩壊～夕張市の財政破綻と医療Ⅱ 10. （特別講義）行政からみた医療経済学と今後の医療Ⅰ 11. （特別講義）行政からみた医療経済学と今後の医療Ⅱ 12. （特別講義）行政からみた医療経済学と今後の医療Ⅱ 13. （演習） 医療経済学的視点から保健医療課題の解決にむけてⅠ 14. （演習） 医療経済学的視点から保健医療課題の解決にむけてⅡ 15. （総括）		
授業のすすめ方	講義を行いながら，随時質疑・討論を中心に理解を深める形態をとる. 演習では，身近な医療問題についてグループディスカッションによる討論を行う. 特別講義では臨床現場と行政の立場から医療のあり方について専門家と意見交換する.		
教科書及び参考書	英文の参考教科書として，下記を推奨する. Folland S. The Economics of Health and Health Care. 7th edition, PEARSON		
OFFICE HOUR	常時. E メール等による事前のアポイントメントを取ることが望ましい.		
試験・成績評価	出席状況や授業参加態度，ディスカッションポイントの把握と対応力 40% レポート 60%		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**薬事情報学**		
開講学期	1･2 年次・前期	単位数	1
担当教員	家入　一郎，小林　大介		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 医薬品の開発過程から臨床使用に至るあらゆる分野で発生する薬事情報，医薬品情報の質と量を理解する. 2. 講義及び演習を通して，薬物療法に関連する医薬品情報の収集･整理･評価･構築･提供の方法を学ぶ. 3. 受動的医薬品情報活動と能動的医薬品情報活動の違いを理解し，医薬品の適正使用における医薬品情報活動･研究の役割を学ぶ. **Ⅱ. 個別学習目標** 1　医薬品開発 1. 医薬品開発のプロセスを非臨床試験と臨床試験に区別して説明することができる. 2. 医薬品製造承認に必要な薬事情報を列挙し説明できる. 3. 臨床試験において得られる情報を列挙することができる. 4. 医薬品開発過程で生じた情報が，医薬品を使用する現場でどのような意義をもつのかを説明できる. 5. 市販後調査において得られる情報とその役割を説明できる. さらに，市販後調査と薬剤疫学的アプローチとの関わりを理解する. 2　医薬品情報活動 1. 医療現場における医薬品情報活動を理解する. 2. 受動的医薬品情報活動と能動的医薬品情報活動の違いを説明できる. 3. 医薬品情報の収集･整理･提供の基本的な方法論を学ぶ. 4. 薬物療法に関する情報の種類･情報源を列挙し説明することができる. 5. 適切な情報源にアクセスし，医薬品情報を収集することができる. 6. 医薬品を，治療効率･経済効率の側面からも評価することができる. 7. 個別化された医薬品情報と平均化された医薬品情報の役割を理解できる. 3　医薬品の適正使用 1. 医薬品適正使用の概念を理解する. 2. 適正な薬物療法を立案するのに必要な医薬品情報とそれを駆使する技術を学ぶ. 3. 薬物がヒト体内でたどる運命を，その機序も含めて説明できる(薬物動態学の理解). 4. 薬物の主作用や副作用が起こるメカニズムを説明できる(薬理学と薬力学の理解). 5. 過量投与や相互作用による副作用の発生を理解し，その機序を説明できる. 6. 薬物血中濃度測定に基づく薬物療法の個別化･最適化の方法を学ぶ. 7. 薬物動態学･動力学に基づく副作用や薬物相互作用回避の方法を学ぶ. 8. EBM(evidence based medicine)と医薬品の適正使用の関わりを理解する.		

授業のすすめ方	講義および演習形式にて行う. 授業は, 一部オムニバス形式をとり, 様々な領域の第一線で活躍する現役薬剤師, 大学教官, 製薬企業の開発担当者が行う.
教科書及び参考書	テキストは使用しないが, 必要に応じて資料を配布する.
OFFICE HOUR	特に設けない
試験・成績評価	事前課題への対応:20% 授業参加(積極的な授業参加, 有意義な発言など):20% 最終試験あるいはレポート:60%

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**医療訴訟論**		
開講学期	1･2 年次・後期	単位数	2
担当教員	五十川 直行		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 法律学(ことに, 民事法学)上の理論的･実践的観点から,「信頼に値する医療」へ向けた基本的な法的思考方法等を体得することを目標とする. 具体的には, 1. 医療実践と法制度との関わりにつき, その基本的な法枠組みを理解する. 2. ことに, 患者･医師関係の法的ありかたにつき, その本質を理解する. 3. 医療事故訴訟や近時の論争点につき, その基本的な問題の所在を理解する. **Ⅱ. 個別行動目標** (1･2) 法制度一般につき, 主体的な関心を抱き, かつ, 一定の考究を得る. (3･4) 医療に関わる諸種の法制度につき, その全体的な関連を考究する. (5･6) 患者･医師関係をめぐる法的概念につき, 一定の考究を得る. (7･8) 医療事故訴訟を構成する基本的法概念につき, 一定の考究を得る. (9･10) 生殖医療, 患者の意思に反する治療, 尊厳死, 脳死, 臓器移植など, 医事法上の論争点につき, 主体的な関心を抱き, かつ, 一定の考究を得る. (11･12) 医事法上の諸論争点に関し, 自分の考えを法理論的にまとめる. (13･14)「信頼に値する医療」に向けた法的思考方法につき, 一定の考究を得る. (15) まとめ		
授業のすすめ方	講義形式を併用しながらも, 基本的には演習の形式で進める.		
教科書及び参考書	最新の文献等につき, 適宜, 指示申し上げる.		
OFFICE HOUR	授業時間に続く一時間程をもって, これに充てる.		
試験・成績評価	普段の学習･研究を重視する観点から, 授業時の発言等 50 点, 最終レポート 50 点として, 成績評価申し上げる.		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**医療財務管理論**		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	植田 正敬		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1. 個々の医療施設に, 社会一般通念として醸成してきている「経済的合理性」・「経済的効率性」・「市場の論理」が, どの程度ないしはどのように適用されるべきかを探求する. 2. 病院経営・診療所経営を, 「ヒト・モノ・カネ・情報」の最適なバランスがどうあるべき, また,その標準化指標の可能性を, 特に財務的視点から検討する. 3. 以上の視点からの理解・学習から, 医療専門経営者・医療財務マネージャー(=トレジャーラー)としての資質を高めることを目標とする. **Ⅱ. 個別行動目標** (1-3) 病院会計準則にしたがって財務諸表(貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書)のしくみを理解する. (4-6) 収益性, 安全性, 機能性等の経営分析指標を理解する. (7-9) 「病院経営管理指標」を利用し, 個別の医療施設の比較経営分析を行う. 資金調達および運用, 資金管理などの視点から問題点を抽出し, 解決できる力を修得する. (10-12) 医療設備等の投資決定に際しての投資の評価方法について理解する. (13-15) 新たな資金調達方法のしくみと利用可能性について理解する.		
授業のすすめ方	基本的には講義, 質疑応答及び問題演習 (講義開始までに, 簿記3級程度の基礎知識を自学自習しておくこと)		
教科書及び参考書	会計実務Q&A「医療機関(トーマツ)」(中央経済社)及びプリント, 資料等でおこなう.		
OFFICE HOUR	授業後又は随時, メールで受けつける.		
試験・成績評価	レポート:30% 授業参加態度, 出席状況:70%		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**疾病管理学**		
開講学期	1･2 年次・後期	単位数	2
担当教員	鴨打　正浩，松尾　恵太郎		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 1.　疾病管理の概念を理解する. 2.　疾病管理を実践する能力を身につける. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 疾病管理の歴史的背景について述べる. 2. 疾病管理の目的を説明する. 3. 患者指導の方法を習得する. 4. 疾病管理のための医療情報について理解する. 5. 日本における疾病管理システムについて述べる. 6. 疾病管理を行う上での問題点を述べる. 7. 疾病管理プログラムを作成する. **授業内容** 1.　疾病管理総論 2.　日本における疾病管理 3.　糖尿病対策 4.　循環器病対策 5.　健康日本 21 6.　特定健診･特定保健指導 7.　疾病管理プログラム 8.　疾病管理と ICT 利活用 9.　遠隔医療 10.　地域医療連携 11.　疾病管理の経済的側面 12.　がん予防総論 13.　ゲノム情報を用いたがん予防の可能性 14.　疾病管理の現状と今後の展望 15.　総合討論		
授業のすすめ方	講義を中心として，適宜ワークショップ，総合討論などを行う.		
教科書及び参考書	必要に応じて適宜配布する.		
OFFICE HOUR	他の用務がなければ常時質問，相談に応じる.		
試験・成績評価	出席状況 40%，受講時態度 20%および試験 40%により採点を行う.		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**病院会計学**		
開講学期	1･2 年次・後期	単位数	2
担当教員	重見 亘彦		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 「病医院に倒産はない」という神話は過去のものとなり，我が国の医療機関を取り巻く環境は診療報酬の改定や少子高齢化，医療費の増加抑制など目まぐるしく変化し，一般企業と同様の経営ポリシーを保持して行かなければならない状況となっている．当講義は医療機関の経営的特質の部分と一般企業と同様の経営手法を取るべき部分を調和させながら，病医院が行うべき経営を会計学の視点から講義する． **Ⅱ. 個別行動目標** 当講義では，医療法人または個人の医院等開設主体がいずれの場合においても，医療機関として共通する管理業務の重要なテーマを解説するものであり，ひいては当講義を受講することにより，携わる実務者にとっては直面の課題となる実務の解説，医療機関の中心となる医師においては現場の実務の粗方の理解もさることながら，当該医療機関の経営理念・経営方針の必要性を通じて医療機関としての組織の成長発展のヒントを供与することを目標とする． **授業内容** 1. 病院会計 introduction 当講義の目標と病医院の経営総論 2. 病院会計を学ぶための基礎知識(1) 医療機関の組織の種類, 健康保険制度 3. 病院会計を学ぶための基礎知識(2) 簿記･会計学, 単式簿記と複式簿記 4. 病院会計を学ぶための基礎知識(3) 病院会計における規則･ルール 5. 医療機関において必要な管理 資金管理等 6. 個別の病院会計論点(1) 診療収益 7. 個別の病院会計論点(2) 医薬品･診療材料等の棚卸資産管理 8. 個別の病院会計論点(3) 固定資産 9. 個別の病院会計論点(4) リース～固定資産とリース各々の長短 10. 個別の病院会計論点(5) 人件費その 1(給与及び社会保険) 11. 個別の病院会計論点(6) 人件費その 2(賞与, 退職給付) 12. 個別の病院会計論点(6) 経費その1 13. 個別の病院会計論点(7) 税金 14. 病医院開業実務及び会計 15. 当講義のまとめ		
授業のすすめ方	テキスト及び講師作成のレジュメに沿って講義する.		
教科書及び参考書	指定教科書なし		
OFFICE HOUR	水曜日		
試験・成績評価	試験 90%, 出席 10%		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**社会保険労務論**		
開講学期	1･2 年次・前期	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩		
授業の概要	Ⅰ．一般学習目標 医療機関も含め企業経営の現場における昨今の人事・労務に関する諸問題，経営ニーズ，対応策について，関係諸法令，行政動向，企業事例を通じて理解する． 授業内容 1. 企業経営における現在の人事・労務の着眼点 2. 組織における労務管理の重要性と労務リスクの実例 3. (1)「過重労働問題」と関係法令，労働行政の動き (2)「厚生年金基金問題」と国の年金制度施策 4. (1)「社会保険の適用拡大」とパート労働者・高齢者雇用への影響 (2)「2018 年問題」，「同一労働同一賃金」と多様な労働力活用に関する動向 5. 労働時間規制と労働時間管理の対応 6. 賃金規制と賃金決定の対応 7. 配置転換・出向・降格の対応 8. 不利益変更・退職・解雇の対応 9. 健康管理の対応 10. ハラスメントとメンタルヘルスの対応 11. 社会保険・労働保険の対応 12. その他問題社員に対する対応 13. 人材不足の解消（採用手法の見直し，多様な人材の活用・戦力化，ES 向上） 14. 働き方改革（生産性向上） 15. 組織のあり方改革（組織活性化，幹部の意識改革，業績評価×人事評価）		
授業のすすめ方	講義を中心として，適宜，質疑・討論を行い，理解を深める．		
教科書及び参考書	必要な講義資料を配布する．		
OFFICE HOUR	講義期間中は随時質問等に応じる．		
試験・成績評価	質疑・討論などの受講態度（30%）＋出席状況（70%）		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**医療分析学**		
開講学期	1･2 年次・前期	単位数	2
担当教員	小野塚 大介		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 本講義では，医療分析学の概念，指標，分析方法等に関する基礎的な知識を提供するとともに，保健医療分野の具体例を用いて，研究計画の立案からデータの収集，管理，統計解析，解釈に至るまでの一連のプロセスについて理解を促進することを目的とする. **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 保健医療分野で用いられる代表的な分析方法について説明できる. 2. 研究に係る一連のプロセスについて理解できる. 3. 基本的なデータの取扱いができる. 4. 代表的な統計学的手法を適切に使用することができる. 5. 得られた結果について適切に解釈し，批判的吟味ができる. **授業内容** 1. 医療分析学概論(1) 2. 医療分析学概論(2) 3. 研究計画の立案(1) 4. 研究計画の立案(2) 5. データ収集(1) 6. データ収集(2) 7. データセットの作成 8. データの要約 9. グラフの作成 10. 2群間の比較 11. カテゴリカルデータ分析 12. 相関分析 13. 線形回帰分析 14. ロジスティック回帰分析 15. 生存時間分析		
授業のすすめ方	講義及び演習形式とする.		
教科書及び参考書	講義及び演習の際に，資料を適宜配布する.		
OFFICE HOUR	事前にアポイントメントをとること.		
試験・成績評価	出席状況:15 点 最終試験:85 点		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	**衛生学**		
開講学期	2年次･後期	単位数	1
担当教員	二宮　利治(衛生･公衆衛生学), 秦　淳(衛生･公衆衛生学), 吉田　大悟(衛生･公衆衛生学), 田中　昭代(環境医学), 平田　美由紀(環境医学)		
授業の概要	**Ⅰ. 一般学習目標** 人間の健康は自然・生活習慣，生活・労働環境によって影響を受ける． 公衆衛生学では，主に疫学的手法，保健行政・政策について学ぶ．衛生学では主に化学的要因，物理的要因と社会とのかかわりの中で健康問題を把握し，対策方法を学ぶ． **Ⅱ. 個別行動目標** 1. 公衆衛生学に関しては，疫学的手法，保健行政・政策について説明できる． 2. 衛生学については，産業保健に関しては，産業保健の現状，労働衛生法規，労働安全衛生管理の方法，職業性疾患とその予防について説明できる． **授業内容** 医学部4年生の衛生・公衆衛生学の講義から6コマ選択する．		
授業のすすめ方	講義形式とする.		
教科書及び参考書	講義の際に資料を掲示する.		
OFFICE HOUR	他の用務がなければ常時質問, 相談に応じる.		
試験・成績評価	出席と各講義毎のレポート提出により評価する.		

4. 履修モデル

			医系					非医系				
			医療機関従事者	行政・保険者関係者	教育関係者	コンサル関係者	情報系関係者	医療機関従事者	行政・保険者関係者	教育関係者	コンサル関係者	情報系関係者
科目群	科目名／合計単位数	単位数	47	42	46	42	41	45	43	47	38	43
医療学基礎科目群	医学概論	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	分子医学概論	1						○	○	○	○	○
	内科学	1						○	○	○	○	○
	外科学	1						○	○	○	○	○
共通基礎科目群	医療保障法	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療マーケティング論	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療の質概論	2	○	○	○		○	○	○	○		○
	医療安全管理論	2	○		○	○		○		○		
	病院管理論	2	○		○	○	○	○			○	○
	医療オーガナイズ論	2	○	○	○				○	○		
	社会医学	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
必修専門科目群	医療政策学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療財政学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療経営学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療管理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学Ⅰ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	疫学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医学統計学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	環境保健学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	演習Ⅰ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	演習Ⅱ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	医療行政学	2	○	○	○	○	○			○		○
	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学II	2	○									
	医療経済学	2		○	○	○			○	○	○	
	薬事情報学	1	○	○	○	○	○		○	○		
	医療訴訟論	2	○	○	○	○		○	○	○	○	
	医療財務管理論	2		○			○	○	○		○	○
	医療人事管理論	2	○			○		○				
	疾病管理学	2	○	○	○		○	○	○	○		○
	病院会計学	2		○			○	○	○		○	○
	社会保険労務論	2	○		○	○		○		○	○	
	医療分析学	2			○	○	○			○	○	○
	衛生学	1		○	○	○			○	○	○	

5. 2019 年度授業時間割

【 前期 】

曜日＼時限		1時限目 8:40～10:10	2時限目 10:30～12:00	3時限目 13:00～14:30	4時限目 14:50～16:20	5時限目 16:40～18:10	6時限目 18:30～20:00
月	1年	**内科学:臨床医学Ⅴ①②**（赤司） ※5/27 臨床大講堂 **内科学:臨床医学Ⅴ③**（須藤） ※6/10 百年講堂中ホール 1・2		**外科学**（森） 総・104 セミナー室			
	2年						
火	1年	**医療財政学**（福田） 総・204 セミナー室 **医療管理学**（鮎澤） 基礎B・204 演習室		**医療コミュニケーション学Ⅰ**（鴨打） 基礎 B・204 演習室 **医学統計学**（清原(千)） 総・2F IT ルーム ※8/6 及び 8/13 は 3～5 限開講		**医療政策学** （馬場園） 基礎B・204 演習室	
	2年				**医療マーケティング論**（馬場園） 基礎B・404 演習室		**演習Ⅰ** （各教員）
水	1年		**内科学:臨床医学Ⅴ①②**（赤司） ※6/12 基礎 B・講義室 **内科学:臨床医学Ⅴ③**（須藤） ※5/29 基礎 B・講義室	**医療分析学**（小野塚） 総・IT ルーム			
	2年						
木	1年	**内科学:臨床医学Ⅴ①②**（赤司） ※5/30 臨床大講堂	**内科学:臨床医学Ⅴ①②**（赤司） ※4/11, 5/9, 5/23 臨床大講堂 **内科学:臨床医学Ⅴ③**（須藤） ※5/30, 6/6 臨床大講堂	**医学概論** （鴨打, 馬場園, 鮎澤, 福田） 総・204 セミナー室	**薬事情報学** （家入, 小林） 総・204 セミナー室		
	2年						
金	1年	**内科学:臨床医学Ⅴ③**（須藤） ※6/7 臨床大講堂, 6/28 基礎 B・講義室	**分子医学概論** （住本） 総・204 セミナー **内科学:臨床医学Ⅴ①②**（赤司） ※6/28 基礎 B・講義室 **内科学:臨床医学Ⅴ③**（須藤） ※5/31 百年講堂中ホール 1・2				
	2年						

［講義場所］総：総合研究棟，基礎 B：医学部基礎研究 B 棟

※時間割は変更される場合があります。
※内科学の授業は変則日程で開講されます。
※各授業科目の開講日については，別途配布の「2019 年度前期授業日程」で確認してください。

【 集中講義 】

授業科目名	担当教員	日　程	講義室	備　考
医療経済学	松尾	6/22, 6/29, 6/30	基礎B･204 演習室	
社会保険労務論	鴨打	6/15, 7/20	基礎B･204 演習室	
医療行政学	鴨打	5 月中旬～8 月下旬(予定)	基礎B･204 演習室	

【 後期 】

曜日＼時限		1時限目 8:40～10:10	2時限目 10:30～12:00	3時限目 13:00～14:30	4時限目 14:50～16:20	5時限目 16:40～18:10	6時限目 18:30～20:00
月	1年						
	2年						
火	1年	**疫学**（松尾） 基礎 B･204 演習室 **医療安全管理論**（鮎澤） 基礎B･204 演習室		**環境保健学** （小野塚） 総･IT ルーム	**医療保障法** （福田） 総･204 ｾﾐﾅｰ室	**医療経営学** （福田） 総･204 ｾﾐﾅｰ室	
	2年	**衛生学** （二宮，秦，吉田，田中，平田） 基礎 A･第 1 講義室				**医療 オーガナイズ論** （馬場園） 基礎 B･404 演習室	**演習Ⅱ** （各教員）
水	1年						
	2年						
木	1年	**疾病管理論**（鴨打） 基礎B･204 演習室 **医療の質概論**（鴨打） 基礎B･204 演習室		**病院管理論**（鮎澤） 基礎B･204 演習室			
	2年						
金	1年						
	2年						

［講義場所］総：総合研究棟，基礎 B：医学部基礎研究 B 棟

※時間割は変更される場合があります。
※衛生学の授業は変則日程となります。
※各授業科目の開講日については，別途配布の「2019 年度後期授業日程」で確認してください。

【 集中講義 】

授業科目名	担当教員	日　程	講義室	備　考
医療コミュニケーション学Ⅱ	鴨打	10 月（予定）	基礎B･204 演習室	開講日時は別途通知
医療訴訟論	五十川	11 月～2 月（予定）	基礎B･204 演習室	開講日時は別途通知
病院会計学	重見	11 月～2 月（予定）	基礎B･204 演習室	開講日時は別途通知
医療財務管理論	植田	1 月～2 月（予定）	基礎B･204 演習室	開講日時は別途通知

６．医療経営・管理学専攻最終成果物執筆要領

１．原稿の一行目にタイトル，二行目に著者名を書く。

２．和文原稿はワードプロセッサーを用いA4判用紙40字×36行（1440字）横書きとする。上下左右のマージンは２cm，フォントはMS明朝で，サイズは10.5とする。

３．原稿枚数は図表を含めて概ね10枚以内とする。

４．論文に求められる基本的な要件は，テーマ，はじめに，対象と方法，結果，考察，参考文献である。

５．論文以外の成果物については，自由書式とする。

６．成果物の最後には，英文抄録（400語以内）およびその和文抄録をつける。英文抄録，和文抄録に関しては，改頁を行うこと。

英文抄録は，Purpose, Method, Results, Discussionから構成される構造化アブストラクトとする。英文フォントはArialとし，サイズは10.5とし，ダブルスペースで記入すること。英文抄録にはKey words（5 words以内）を本文から一字あけて，以下のように記入すること。

Key words: co-payments, health insurance, hypertension, diabetes mellitus

和文抄録は，【目的】，【方法】，【結果】，【考察】から構成する。キーワードは，本文から一字あけて，以下のように同様に記入すること。

キーワード：自己負担，健康保険，高血圧，糖尿病

７．引用文献は引用順に番号をつけて最後に一括し，下記の記載例に従うこと。本文中にも，「・・・・報告されている[1)]。・・・・知られている[2, 3)]。・・・・他の研究を参照した[4, 5)]。」のように文献番号をつける。著者が7名以上の場合は最初の3名を記し，あとは「他」（英文ではet al.）とする。

〈学術雑誌〉著者名，表題，雑誌名，発行年（西暦）；巻：頁。

１．西垣千春，多田羅浩三，老人の入院医療に関する医療保険の種類別比較分析，日本衛生学雑誌，1988；43：741-748.

２．Mccusker J and Stoddard AM, Effects of an expanding home care program for the terminally ill, Med Care, 1987; 25: 373-384.

〈単行本〉著者名，表題，編者名，書名，発行所在地：発行所，発行年（西暦）；引用頁。

３．馬場園明，疫学，山田裕章編，現代健康学，福岡：九州大学出版会，1998；41-56.

４．Johnsen AR, Siegler M, Winslade WJ, Preferences of Patients, Clinical Ethics, New York: McGraw-Hill, 1992; 37-84.

７．医療経営・管理学専攻成績評価規則

制定　平成13年４月１日
改正　平成25年２月23日

第１条　（成績の区分）

学生の成績はＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄの４段階とし，Ｃ以上を合格とする。ただし，特別の理由があるときは合格・不合格の２段階評価とすることができる。

第２条　（成績区分の標準）

Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄの基準は，下記の通りとする。

Ａ　80点以上，Ｂ　70点以上，Ｃ　60点以上，Ｄ　不合格（60点未満）

第３条　（成績評価）

成績は，筆記試験及び平常点によって評価する。ただし，実習科目並びに相当の理由がある場合は，レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

２　各教員は，成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき，学生が履修する前に公表しておくものとする。

３　教員による採点は，原則として素点によって行う。ただし，学生には素点ではなく，４段階評価で通知する。

第４条　（成績評価に対する調査請求）

学生は，本専攻の授業科目について受けた成績評価につき不服がある場合には，調査請求を行うことができる。

第５条　（調査請求の手続）

学生は，前条の調査請求を行う場合には，調査を請求する授業科目名，担当教員名，請求する調査の内容，及びその理由を記載した調査請求書を，大学院係に提出しなければならない。

２　前項の理由は，公表された成績評価方法を踏まえて，これを具体的に述べなければならない。

３　第１項の調査請求書は，当該成績が発表された日から１週間以内に提出しなければならない。ただし，当該期間内に提出できなかったことにつき正当な理由がある場合はこの限りでない。

第６条（調査請求に対する回答）

前条第１項の調査請求書が提出された場合，当該成績評価を行った教員は速やかに調査を行ったのち，調査請求書が提出された日から10日以内に，調査結果を説明した回答書（以下「調査結果回答書」という。）を大学院係に提出するものとする。

附　則

この内規は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成25年３月１日から施行する。

８. 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻
インターンシップ・実習研修に関する実施要領

（目的）

第１条　この要領を示し，九州大学大学院医学系学府医療経営･管理学専攻（以下「本専攻」という。）における授業時以外のインターンシップ・実習研修（以下「インターンシップ研修」という。）について有益かつズムーズな運営を行う。

（インターンシップの定義）

第２条　インターンシップ研修とは，本専攻の大学院生の専門教育をより充実させるために，学外諸施設のインターンシップ制度を利用して，学外諸施設において業務に従事することをいう。

２　インターンシップ・研修の実施に係わる経費は，大学院生が負担するものとする

（単位認定）

第３条　インターンシップ研修は，単位として認定しないものとする。

（参加）

第４条　インターンシップ研修は，大学院生の意思において，既存の授業に影響を及ぼさない範囲で参加するものとする。

（届出）

第５条　前条によりインターンシップ研修に参加する大学院生は，事前に専攻長に申し出るものとする。

（許可）

第６条　参加の許可は，医療経営・管理学専攻会議の議を経て，学府長が行う。

（研修中における事故責任等）

第７条　大学院生は，研修参加において，インターンシップ期間中の事故に備えて，学生災害傷害保険及び賠償責任保険に加入しなければならない。

２　大学院生は，研修中の事故に関して，自らの責任において対応することとし，九州大学は一切の責任を負わない。

３　九州大学は，研修生が学外諸施設及び第三者に与えた損害に関して，一切の責任を負わない。

４　大学院生は，研修生が学外諸施設及び第三者に損害を与えたときは，学外諸施設及び当該第三者に対し当該損害を賠償しなければならない。

(機密情報・個人情報等の保持)

第８条　大学院生は，本件インターンシップに関する学外諸施設の機密情報，個人情報について，みだりに第三者に開示したり，漏えい事故を発生させないよう十分な注意を払わなければならない。

（事務）

第９条　インターンシップ研修に関する事務は，大学院係が担当する。

（その他）

第10条 この要領に定めるもののほか，インターンシップ研修に関して必要な事項は，別に定める。

附　則

この要領は，平成29年４月１日から施行する。

９．学生生活のしおり

事 務 手 続 等

１．連絡・受付

１）事務窓口

医学系学府の皆さんの各種手続き等は学務課大学院係で受け付けます。

窓口事務取扱時間は，8時30分～17時15分です。

２）連　　絡

皆さんへの連絡は，基本的に大学院掲示板で行います。掲示を見なかったことによって不都合や不利益が生じることのないよう，必ず掲示板を見るようにしてください。

２．各種証明書の発行

在学証明書，JR学生旅客運賃割引証（学割証）及び成績証明書は，図書館1階設置の証明書自動発行機で発行します。通学定期券購入用の通学証明書は窓口で交付し，修了見込証明書等は申込の日から原則として３日後に交付します。ただし，英文による証明書については，原則として７日後に交付します。

学生定期健康診断を受診した者の健康診断証明書は，自動発行機で発行します。発行されない場合は健康科学センター病院地区健康相談室に申し込んでください。

３．各種届と願（各様式は医学系学府ホームページからダウンロードできます。

http://www.grad.med.kyushu-u.ac.jp/procedure/index.html）

１）履修届の提出

履修する授業科目については，学期毎に指示された日時までに大学院係あて履修届を提出してください。

２）現住所変更届

学生及び保護者等（緊急連絡先）の住所変更が生じた場合は，速やかに大学院係へ報告してください。

３）改姓・本籍・保護者等の変更届

変更が生じたら届け出てください。改姓の場合は住民票記載事項証明書を添付してください。

４）休 学 願

病気，その他やむを得ない事情で２ヶ月以上修学できない場合は，願い出により休学することができます。指導教授とよく相談のうえ所定の様式で（病気の場合は診断書添付）学府長宛に願い出てください。

なお，学期が始まる前（３月31日又は９月30日）までに休学が許可された者の休学期間中の授業料は，原則として免除されます。

休学期間が満了になっても，なお引続いて休学をする必要がある場合は，許可されている期間が終わるまでに，休学の延長を願い出てください。

5）復 学 願

休学期間の中途に休学事由が解消し復学しようとする場合，または休学期間満了により復学する時は，復学願を提出してください。病気による休学で休学期間内に全快して復学しようとする場合は，修学に支障がない旨の診断書を添えてください。

6）退 学 願

やむを得ない事情のため退学しようとする場合は，指導教授に相談のうえ退学願を学府長あて提出し許可を受けなければなりません。もし，退学願を出さないで，または許可されないままで通学しなかった場合は，引き続いて在学しているものとして取り扱われます。授業料の支払いも必要になりますので特に留意してください。

7）海外渡航願

海外へ渡航する場合は，指導教員の承諾を得て届け出てください。

4．学 生 証

学生証は，常にこれを携帯し，本学教職員等の要求があったときは呈示しなければなりません。

証明書自動発行機を使用する時にも必要です。裏面は図書館利用者票になっています。情報基盤センター教育用システムのユーザIDと登録コードも印刷されていますので，取扱に注意してください。

学生証を紛失・棄損したときは，再交付願に必要事項を記入し，再発行手数料を納付のうえ再交付を受けてください。

修了・退学等で学生の身分に異動があったときは，直ちに医系学部等学務課大学院係へ返納してください。

5．授業料の納付

授業料は前期分（４～９月）を４月末まで，後期分（10月～３月）を10月末までに本人又は保護者等の指定口座から本学の銀行口座への口座振替により，納入することになっています。

厚　生　関　係

1．奨　学　金

1）日本学生支援機構奨学金

学業成績が優秀で，経済的に困難な学生に貸与されるもので，第一種奨学金と第二種奨学金があります。

募集は入学直後に行いますが，追加があればその都度掲示で通知します。

なお，失職，破産，会社倒産，病気，死亡等又は，火災，風水害等による家計急変のため，緊急に奨学金貸与の必要性が生じた場合には緊急採用もありますので，相談してください。

種　　類	貸与月額（平成27年度参考）
第一種奨学金（無利息）	修士・専門職：５万円，８万８千円　　博士：８万円，12万２千円
第二種奨学金（有利子）	５万円，８万円，10万円，13万円，15万円から選択

奨学生は，次の点に注意してください。

○**適 格 認 定**：毎年度12月に奨学金継続願を提出しなければなりません。期日までに提出がない場合は，奨学生の資格を失うことになります。

○**異　動　届**：奨学生が休学・退学等学生の身分に異動があった場合はすみやかに異動届を出してください。

○**返還誓約書**：定められた期限までに必ず提出してください。詳しくは入学後，配付の申請書で確認してください。

○**返 還 猶 予**：奨学金貸与期間満了者は，６ヶ月後から返還義務が生じますが，返還猶予を必要とする場合は，返還期日到来前に「返還の手引き」にしたがって所定の手続きを忘れないでください。

2）その他の奨学金

数は少ないですが地方公共団体，民間等の奨学金がありますので，掲示に注意するとともに，必要な場合は学務部学生支援課に照会してください。

2．授業料免除

1）経済的理由により授業料の納入が困難であり，かつ学業優秀と認められる者

2）主たる家計支持者の死亡，または風水害等の災害を受けたことにより，授業料の納付が困難と認められた者は授業料免除の対象者となります。

授業料免除申請は年２回で，８月（後期分）３月（前期分）にWEBによる免除申請となります。掲示によりお知らせしますので，十分注意してください。

詳しくは九州大学HPを確認してください。

（https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/fees/exempt02/）

３．健 康 管 理

１）キャンパスライフ・健康支援センター病院地区健康相談室

健康相談，学生相談･カウンセリング，精神保健相談，及び救急処理などの日常業務を行っています。相談・治療に費用は一切かかりません。日常の各相談は，午前９時から午後５時まで受け付けています。休養室もあります。

TEL．642－6889（ダイヤルイン）

２）定期健康診断

毎年４月に定期健康診断が病院地区で実施されます。法律で義務づけられたものです。必ず受診してください。受診者には健康診断証明書が発行されます。

３）特別定期健康診断

実習・実験等で放射性同位元素を取り扱う学生は，定期的に検診を受け，放射線障害等の予防に努めなければなりません。このため，放射線を取り扱う者は，事前に取扱主任者へ登録を行う必要があります。学術総務係が担当しています。

４．保 険 制 度

１）学生教育研究災害傷害保険（学研災）

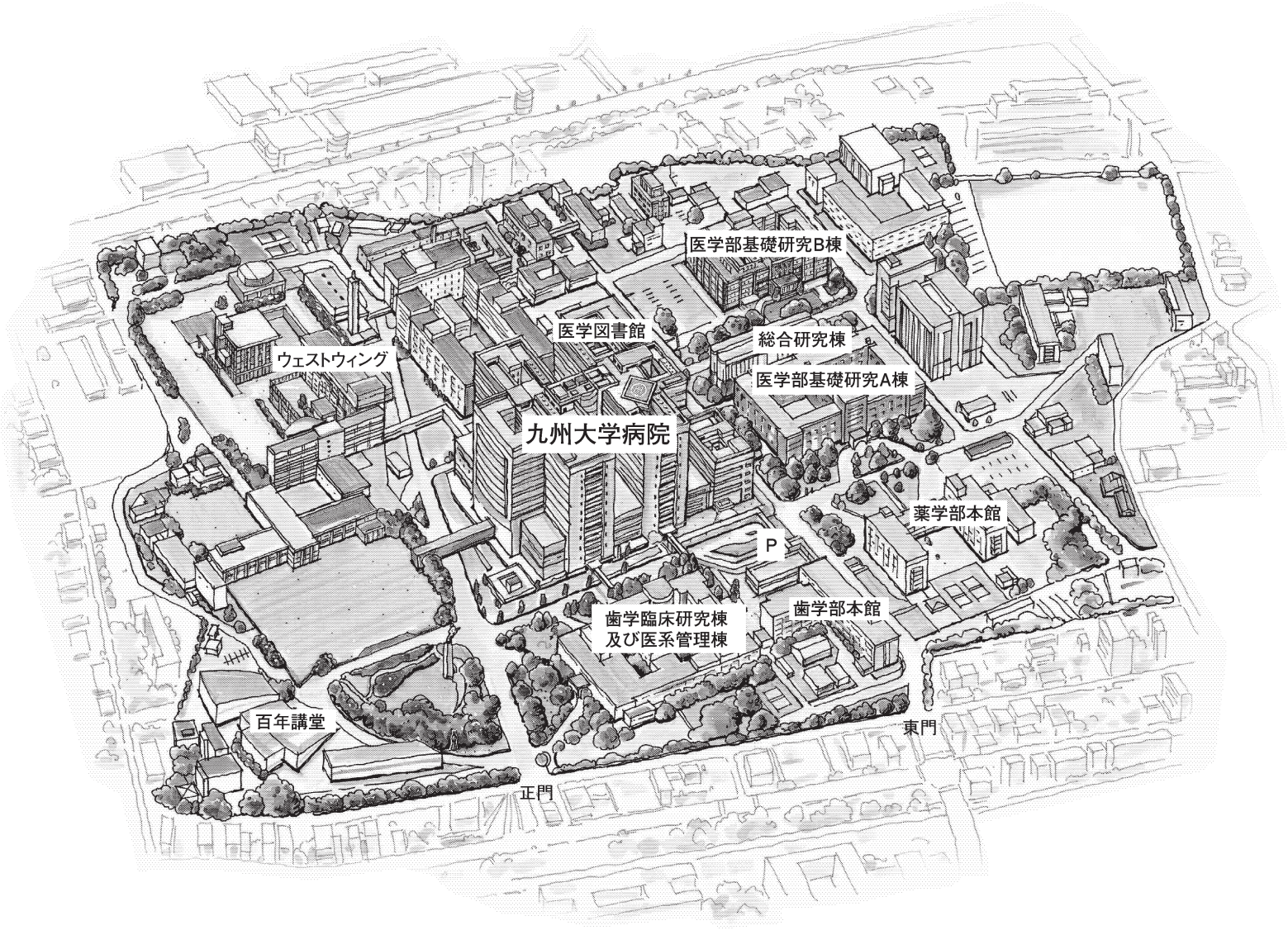
正課中・学校行事中及び課外活動中に災害・障害を被った場合並びに通学中及び大学施設等相互間の移動中の事故に対して，その被害の程度に応じて保険金が支払われる全国規模の保険です。全員加入してください。九州大学生活協同組合医学部購買書籍店窓口で受け付けます。

５．そ の 他

１）生活協同組合の事業所

九州大学の教職員・学生を組合員として運営されています。病院地区には食堂，売店，医系購買店及び医系書籍店があります。詳しくは生協のサービスカウンターで尋ねてください。

病　院　地　区　構　内　図
（医，歯，薬学部等）



10. 2019 年度　学年暦（医学系学府）

行　事　名	日　程	備　考
※前期開始	４月１日（月）	
※春季休業	４月１日（月）～４月７日（日）	
※学生定期健康診断（医学系学府関係）	**４月４日（木）午後　修士・専門職１年（男女）**	
	４月８日（月）午前　修士・専門職２年（男女）	
	博士１年～４年（男女）	
※春季入学式	４月３日（水）	
医学系学府大学院入学者説明会	**４月５日（金）**	
※前期授業開始	４月８日（月）	
前期授業開始（医学系学府）	**４月８日（月）（一部科目を除く）**	
※本学記念日	５月１１日（土）	
※夏季休業	８月２１日（水）～９月３０日（月）	休業日
※秋季学位記授与式	９月２５日（水）	
※前期終了	９月３０日（月）	
※後期開始	１０月１日（火）	
※秋季入学式	１０月１日（火）	
後期授業開始（医学系学府）	**１０月２日（水）**	
※九大祭	１０月１１日（金）～１０月１４日（月・祝）	
※冬季休業	１２月２６日（木）～１月５日（日）	休業日
※大学入試センター試験	１月１８日（土）～１月１９日（日）	
※一般入試（前期日程）	２月２５日（火）～２月２６日（水）	
※一般入試（後期日程）	３月１２日（木）	
※学位記授与式	３月２３日（月）	
※後期終了	３月３１日（火）	

（注）１．※印は九州大学全学行事
　　２．休業日において，特に必要がある場合は授業を行う。